

くらしと教育をつなぐ

2005年8月1日発行 (毎月1回1日発行) 第14巻第5号 (通巻135号) 1992年12月15日第三種郵便認可

女と男の家庭科新時代

We

8.9

2005

特集

お隣はクオータ先進国



【講演会記録】

孫 明修さん
韓国の女性と政治

韓国女性運動の資金づくりに学ぶ
～韓国女性財団の活動を視察して～

柳川 眞佐子

発行 全国不登校新聞社

Fonte

Fonte(フォンテ)はラテン語で「源流から」の意味。
本紙は不登校を中心テーマとしながら、
虐待や発達障害の問題など、
広く子どもに関わる問題を取り上げています。
ひきこもりやニートなど若者の問題も含め、
当事者の声を中心としています。

ONLINE SHOP ホーム 商品カテゴリ 特定優待引込に基づいた表記
全国不登校新聞社オンラインショップ

商品カテゴリ

ご希望の商品カテゴリを選択してください。

新聞購読

Fonte定期購読のお申し込み、バックナンバー販売。 ※送料は
価格に含まれています。

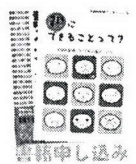
商品一覧ページへ



書籍

不登校新聞社で刊行した書籍です。 ※送料別途。ただし、定期
購読と併せてご購入の場合は送料無料。

商品一覧ページへ



オンラインショップも開設しています。

<http://www.futoko.org>

■大阪編集局 〒537-0025 ■東京編集局 〒162-0065 ■名古屋支局 〒464-0036
大阪市東成区中道3-14-15 新宿区住吉町8-5 名古屋市千種区本山町2-33-1
TEL 06-6978-6615 TEL&FAX 03-5360-1231 TEL 052-759-2375
FAX 06-6978-6626 mail to: tokyo@futoko.org FAX 052-759-2376
mail to: osaka@futoko.org mail to: nagoya@futoko.org

毎月1日・15日発行/購読料金 6カ月4800円
郵便振替口座 00100-6-22077 全国不登校新聞社

特集 お隣はクオータ先進国

【講演会記録】

孫 明修さん 2
韓国女性の性と政治

韓国女性運動の資金づくりに学ぶ 23
～韓国女性財団の活動を視察して
柳川 眞佐子

■女と男の家庭科新時代

新・オホーツクの潮風荒く 江口凡太郎 29
□授業実践□ 家庭科 風がかわる 匂いがかわる
「自立」を考える授業 越智 紀子 30
“覚醒”と“自立”のための「ジェンダー論」 沼崎 一郎 35
—女子大での教育経験から 最終回 なんほのもんじゃい？
気まぐれ連載 (1) 家庭科食鮮市場 かとうあきひと 41
「ひまわり」の日々 (15) あっ！ 首が回らない 入江 一恵 42

■連載

魚沼の地から (5) 浅草事件 黒岩 秩子 44
わがまま映評 (25) 『ラヴエンダーの咲く庭で』 満田 康子 46
乱読大魔王日記 (65) 冠野 文 48
続・ひげのおばさん子育て日記 (5) 誰にでも「ハレ」の場を
中畝常雄・治子 50
Gender Free Breeze (13)
げんちゃんのダイエットPart2 バランス 三浦 純子 52
リレーエッセイ【地方からの発信】 (5)
山形から 県民企画講座を立ち上げて 菅野 節子 54
ひと・まち・NPO (5) 円卓テーブルと花火 西川 正 56
女が歳をとるとのこと (95) がん騒動 木村 栄 62

●本の紹介 58
●読者のひろば 63
●編集後記 64

講演会記録

韓国 の女性と政治

ソン・ミヨンス
孫明修さん

(日韓市民スクエア 共同代表)



東京生まれの在日韓国人三世。法政大学大学院社会学研究科(社会学専修)修了。専攻は、NPO/NGO論、NPOマネジメント、社会運動論、韓国経済など。九二年に「最新ガイド 韓国社会論争」(社会評論社刊)を共訳で出版。以後、翻訳家、通訳として活動。

※日韓市民スクエア E-mail : jk_square@jcom.homenet.jp

※二〇〇五年六月二五日、全国フェミニスト議員連盟主催の講演会の内容を、ご本人と会のご協力を得て採録しました。

はじめに

孫明修(ソン・ミヨンス)です。在日三世で、「日韓市民スクエア」というNGOの共同代表をやっています。日本でも、九〇年代から「市民の時代」と言われていますが、その動きは韓国も中国も同様で、NGOがたくさん生まれています。それで、もつと東アジアで共通の問題を解決していくために、日本と韓国の市民社会が手を結べるようにサポートすることを活動のコンセプトにして、韓国の情報をいろいろ発信したりしています。

今日は「韓国の女性と政治」というテーマでお話したいと思います。韓国では二〇〇五年三月に、民法改正案が国会を通過し、戸主制が廃止されました。離婚すると子どもは全部夫の籍に入るので、不利益をこうむり合理的でないとして、女性たちが戸主制廃止の運動を進めていきましたが、伝統的な男性社会が激しいアレルギー反応を示すテーマなので、昨年末から反対派のものすごい巻き返し、バックラッシュがありました。NGOが芸能人を説得して運動の組織化をしていましたが、その広報大使になっていたのが「冬ソナ」でペ・ヨンジョンさんの上司役、「キム次長」役をや

ったクオン・ヘヒヨさんという俳優で、彼はNGOの活動を一所懸命サポートしていますね。彼は広報大使を引き受けたあと、ずいぶん中傷を受けたのですが、ネット上などであまりにバッシングを受けるものから、その時、役者仲間から「時代の方向をつかみそこなったね」と嫌味を言われたそうです。ですが、結局は、世論の支持も受け、法案が通過。法案通過の祝贺パーティーでのインタビュアーのなかで、その嫌味を言った同僚に向かって「きみのほうが時代をつかみそこなっているね」と逆にメッセージを送っていましたね。

では本題に戻りましょう。前段として二〇〇四年四月の第一七代国会議員総選挙のことをお話します。選挙の結果、少数与党であった「開かれたウリ党」が、国会で単独過半数をとり、盧武鉉政権は安定的な政権運営を可能にしました。実は、そのとき日本ではあまり報道されなかったのですが、それまで国会議員のうち女性が占める比率が約六%だったのが、一三%にまで引き上げられるほどの大躍進をとげました。

これから、その背景を市民社会側がどのように準備してきたかということについてお話ししたいと思います。はじまりは九四年までさかのぼります。

市民社会（NGO）側の戦略と対応

1. 始発期 九四年「女性の政治参加拡大」をテーマ化

（韓国女性団体連合）

そもそも、韓国では、一九四八年に憲法が、翌四九年には地方自治法が制定され、五二年からは地方議会議員選挙も実施され、戦後当初は、かなり分権的な行政システムをとっていました。しかしながら、六一年九月の朴正熙による軍事クーデター以降、地方自治は停止されました。その後、民主化のプロセスを歩みながら、地方自治法が全面的に改正され、九一年には三〇年ぶりに一部地方議会議員の選挙が実施され、九五年六月には民選による基礎・広域団体長選挙が実施され、地方自治制が復活、九八年六月には第二回統一地方選挙が実施されて、本格的な地方自治制度が復活しました。こうした地方自治の復活という民主化プロセスの中から、女性たちが自分たちの代表を政治の現場に送ろうという運動が始まったわけです。

韓国全土の二八〇から三〇〇団体くらいの地域のさまざまな女性団体が加盟している「韓国女性団体連合」というNGOがあります。この女性団体連合が、二回目の地方選挙が一九九三年に行われた後、九四年に、

「二〇%地方議会女性参加特別事業本部」をつくりま
す。これが「女性と政治」ということを戦略的に考え
始めるきっかけになった社会的な動きです。

どういう形で展開したかということですが、まず、
女性の政治参加の必要性についての社会啓発と広報、
女性候補の発掘と教育研修を行う、女性政治発展基金
という女性の政治参加や政治的な活動を発展させるた
めの基金作り、地域社会における生活関連の課題を発
掘し、それを政策化していく、選挙運動時のボランテ
ィア支援、などを事業メニューにしています。

その結果、その前の第二期の地方議会では女性の地方
議員の比率は韓国全土で〇・九%でしかなかったのが、
九五年に女性団体連合をはじめとして全国の約三〇〇
の女性団体がこういう運動を展開したことで、特別事
業本部が支援・擁立した女性候補一四名が当選し、女
性地方議員比率は二・二%へと上昇しました。

○バイオニアの活躍

この結果、当選した一四名の女性議員がバイオニア
として非常に頑張つて、各地でかなり精力的に活動し
ました。韓国のマツチョン男政治の中では、道路やダ
ムをつくるのかいいうことは一所懸命やるんですけれ

ど、一般市民、特に弱い階層の人たちが最も求めてい
るものは、あまりお金にならないので結局やらなかつ
たわけです。女性議員たちはそのような地域の住民の
意思を体现するさまざまな政策、今まで捨ておかれて
いた福祉とか教育の問題に一番一所懸命に取り組んだ
のです。このことは、単なる女性の政治進出という問
題にとどまらず、本質的には、民主化の結果として復
活させた地方自治をどのように発展させていくべき
か、そして、民主主義と地方分権の時代における、地
方議会や地方議員の最も望ましい今後のあり方、政治
活動のモデルを、一四人の女性議員が示していったと
いうことを意味します。また、こうした彼女たちバイ
オニアの活躍は、既存の政党政治家に対してインパク
トを与えることができたんですね。

○既存の政党との関係

ただその一方で、彼女たち女性候補のうち一名が、
既存の政党から公認を受けて出て当選した方でした。
女性団体が下から擁立したことには間違いないのです
が、そのことによって「女性団体は結局は不偏不党で
はなく、特定政党の手足になってやっていると吹聴され
て、その地域では大衆的な活動の障害になる

こともありました。

既存政党との関係をどう考えていくのかということ
は、今後、市民と政治、あるいは女性と政治を考える
ときのひとつの普遍的なテーマだと思えます。市民団
体やNGOは政党・政治組織ではないですから、両者
の関係、役割分担は何か、といったことをこの時の経
験はすべて内包しているわけです。

2. 九八年 第四期地方選挙

○九五年「女性の政治参加拡大」を採択

九五年の統一地方選挙が終わったときに、女性団体
連合は、「女性の政治参加の拡大」をメインの方針に
据えました。

こうした方針にもとづいて、九五年から九八年まで
の選挙のあいだは、女性候補に対する教育と研修、そ
れに第三期の地方議会選挙で当選した女性議員たちの
活躍の成果と実績をパンフレットとして作成して広報
する、それによって、こういう女性候補が政治に必要
なんだと、つまり、女性の政治進出は実際に社会的な
機能として有用なのだと実証的に社会に知らしめるよ
うなことを方針化し、取り組みました。

○選挙の位置づけは既存のスタンスを維持

その一方で、選挙運動の支援に関しては、女性団体
連合はNGOとしての中立性を保持するというところ
で、あまり関与しなかったんですね。女性団体連合は
政治的な野心があつて代表たちが活動をしているんじ
やないかという見方がずいぶんありましたので、選挙
運動自体にはそれぞれ地域で候補を擁立した団体だけ
が頑張つてやるという形に、つまり、選挙を突破して、
地方政治に女性を送り込む現場の力は、その地域の女
性団体の力量に全面的に依存することになつたので
す。その結果、九八年の地方選挙では全地方議員に占
める女性議員の割合は、前回九五年の地方選挙の二・
二％から二・三％に、ということではわずか〇・一％し
か上昇させることができなかった。〇・九％から二・
二％へと女性議員の数を一気に押し上げた九五年の選
挙の後には、政党も女性運動をあまり無視することもで
きなかったのですが、この第四期の地方議会選挙で女
性議員が伸び悩んだことで、既存の政党からは、女性
運動もあまり大したことはないなどと思われて、そのこ
とでその後女性運動がかなり停滞し、政策課題解決の
ための活動も厳しくなつたと女性団体連合は評価して
います。

○制度改革に力を注ぐ

ただ、一方で、女性団体連合は、こういった活動にプラスして、制度改革に力を注いだのです。つまり、一人の女性候補を推そうとしても、基本的にはカバンも看板も地盤もない。こういう資金も知名度も後援組織もない女性たちが既存の政党と闘っていくためには、政党政治や政治資金システムという同じ土俵の上で闘つたら勝てない。しかもそういう土俵をずっと残しておくこと自体が、韓国の政治をどんどん腐らせ、後退させると彼女たちは判断して、積極的な制度改革に着手し、「クオータ制導入のための女性連帯」という枠組みを九四年に立ち上げます。今、韓国のクオータ制は面白いと言われていますが、実は、始発はここだったんです。女性団体連合や女性団体協議会、女性有権者連盟などが「クオータ制の導入」という、ただそのことだけのためにネットワークを組みました。ある特定目的のために力を合わせ、その目的が達成したら解散するというのは、韓国のNGO界でよく見られる効率的な運動のパターンです。

その主張は、以下のようなものでした。地域区での政党推薦、政党公認において女性を三〇%割り当てる。広域自治体（日本の政令指定都市や都道府県レベルの自

治体）の比例代表のうちの三分の二の割り当てを要求する、というものでした。これが現在のクオータ制定着に至るプロセスの始まりだったんです。ただ、この時点では要求していっただけですな。

3. 参加の政治から影響の政治へ

この後、女性団体連合は、九八年の統一地方選挙を評価して、その結果、女性の政治参加拡大方針に関連して、「参加の政治から影響の政治へ」という形で路線転換を行うことを決定します。つまり、これまで議会に政治家として女性を送り込むというところで、かなりいろんな労力を割いてきたが、基盤の整わない中ではあまり効率的ではない。それだけではなくて、ともすればどこかの政党に入らざるを得ない。政党は女性候補を受け入れたということでは、政党の宣伝には使わが、女性政策につながるわけではない。それをどう回避するのかがということがポイントになります。

その上で、当面参加する、議会に送り込むという戦術では難しいという現実判断を下し、政治制度を改革したり社会的な意識を作っていくという場外での闘いをメインに据えていくわけです。これが九八年の選挙

が終わった直後の時期です。

実際に、彼女たちが、「参加政治から影響の政治へ」という路線転換の下で、どのような議論をし、どのような対応を取っていったかを見ていきましょう。彼女たちは、地方議会への女性参加を拡大する活動を展開してきたわけですが、政治の新しいシステムと基盤を作り出す組織的力が十分でないままでは、既存の政治システムに組み入れられるしかないという限界を確認しました。また、こうした現実的な政治力学の中で、女性運動団体のリーダーが既存政党からごぼう抜きみたい引っこ抜かれないように、女性団体連合の役員は任期中の政党加入は禁止、公職にも就けないとしました。ただし、個別の加盟会員団体の役員については、この方針を尊重してもらっても強制はしないとということを二〇〇〇年に確認します。こうして、「参加の政治」から一歩後ろに下がることで、市民社会側から政治システムの発展、政治制度改革に女性団体として戦略的に取り組んでいくこととなります。

今まで政界進出ということもやっていたわけですが、こうした直接的な女性の政界進出から一歩後ろへ下がって、明確に決別をした上で展開したのが、「落選運動」でした。韓国のNGOが展開した「落選運動」

は、国外でもかなり報道され、韓国の市民社会はパワーがあるということを世界に示しました。ですが、女性団体は「落選運動」に独自の位置づけをおこない、また、その運動のかなり中心的な部分を担い、パワフルな活動をしたんです。

○「落選運動」韓国のオールNGOが結集

二〇〇〇年に「総選市民連帯」というかたちで、韓国のほとんどすべて、四六〇団体位のNGOが結集し「落選運動」に取り組みました。最終的には、全国八〇〇以上の団体が合流して、各地で「腐敗・無能・反人権・反民主主義の政治家」たちを落選させる運動を展開しました。この時まで、韓国の政治の後進性は、目を覆うばかりでした。大統領は、大統領選挙で独自に選ばれるので、大統領の政策ビジョンと強力な権限によって、社会も政府もかなり民主化が進み、企業文化もかなり民主化していったものの、一番最後まで頭迷に、古い体質を残していたのが国会であったわけです。軍事政権時代に民主化運動弾圧や取調べ過程での拷問に関与した政治家たちもいます。また、受託取賄などで幾度も有罪判決を受けながらも、特赦を受けては国会に復帰をしているような政治家たちもたくさん

いました。当選してから、任期中一回も国会に来ない議員もいます。

過去の国会の出席率、どういう発言をしたか、どういう法律に賛成・反対を投じたか、そういう過去のデータを全部洗い、数字を出し、全部リスト化し、こういう人たちが政党は候補者として公認するな、公認した場合は落選させるという運動をしたんですね。

ちなみに、「落選運動」は韓国でも選挙法違反覚悟でやりました。いろいろ選挙法違反にならないように考えたんですけどね。例えばの話ですけど、「すずきなにがし」さんという腐敗政治家がいるとしますよね、「NGOは、過去の不正や反人権経歴などについて広報し、こいつは悪いやつだ、市民は賢く判断してこの「すずきなにがし」さんを落選させるように、と地元に行ってネガティブキャンペーンやるわけですが、そのときに「すずきなにがし」というとまずいんで、「ススキなにがし」とか一文字だけ微妙に変えるわけです。それがまた、新聞やテレビやインターネット新聞などに大々的に取り上げられる。これが微妙に聞かれて、かなりその落選対象候補の名前がインプットされるんですね。ですが、やはり選挙後に最終的には選挙法違反になります。ただ、世論は完全にNGO側

の支援に回っていたので、政府も選挙期間中は取り締まれませんでした。私の知り合いも何人か逮捕されて、六ヶ月くらい拘束されていたり、あるいは保釈金を積んで出てきたりしたんですけどね。このとき国民の支持はものすごかった。彼らはこれも勲章みたいなもんだとカラカラと笑ってましたね。落選運動の途中でも、かなりドラマがあつて、あるおじいさんがボストンバックを持ってNGOの事務所を訪ねてきて、中には巨額のお金が入っていて、これをNGOに使ってくれといって名前も言わないで立ち去ったり、リストに入れられた政治家が、事務所に来て子どもみたいに寝そべって地団太踏んで抗議したり、本当に面白かったです。

こういうことをやって、外から、社会的な状況とか政治家の認識を変えるような土壌を耕すことに焦点を絞った時期だったといえるかと思えます。女性の運動から見れば、「落選運動」がそういう位置づけの中で象徴的に取り組まれていったんです。

その結果、全国で八六名の落選リスト候補者のうち、六八・六％を落選させ、驚くべきはソウル首都圏（ソウル特別市、京畿道、仁川広域市）では、二〇名の落選対象者を選定し、ソウル中区の一名以外すべて落選さ

せました。ソウル中区は、競合する二名とも落選対象者だったため、一名はいずれにせよ、当選してしまうので、これを勘案すると、ソウル首都圏では、リストに載せた腐敗政治家を一〇〇%落選させたことになりました。このNGOが主導し、国民が参加して成し遂げた、社会的イベントによって、有力議員といえども、腐敗政治家、仕事をしない政治家は生き残ることが困難な社会的雰囲気醸成されました。

女性運動団体も含めてNGOの社会的発言権が飛躍的に高まりました。こうしてNGOが多くの政治家を交替させたのですが、政党の構造自体はそのまま変わらずに残っているわけです。ということで、次に、政治発展を実現するための政治システム改革を加速させる下地が、「落選運動」によって形成されたと言えるでしょうね。韓国では、公職選挙法と政党法、それに政治資金法を合わせて政治関係法といい、女性の政党公薦クォータ制もこの中に入るわけですけれど、NGOたちは、これらを変えなければ市民の政治参加もそれによる政治発展もありえないんだという評価をします。特に女性たちは、女性たちが進出し、政治参加をするには、このような、だめな人を落選させるというネガティブな運動だけでは、無理だという評価をする

のです。ちなみに、NGOの大方の評価は、落選運動は政界を正気に戻らせるための一回的な運動であるというもの。「悪い人を落とす」という意味で、本質的にネガティブな運動であり、今後は、望ましい政治家や望ましい政治というものを生み出していくという肯定的・積極的な市民と政治の関係を発展的に模索していくというものであることを付言しておきます。

4. 参加の政治への再転換

次に先程の「影響の政治」というのを提案する時期が来るんです。「参加の政治からの転換」ということですが、まず、政治制度改革を強力に進めようということで、継続してグリグリと運動を進めていきます。

ポイントは、比例区と地域区との議席数を一対一にしないということ。ちなみに比例区と地域区の議席が現在一対一〇程度なので、比例区だけクォータ制を導入したとしても、実際の女性の割合は非常に少ないですよ。ということで比例区の議席割合を上げなさいと。当然ながら、比例区の割合を上げることは、少数者とか多様な意見をどう反映させるかということとも絡んでくる、政治発展の問題とも関連します。

そして、比例区の政党公薦（政党公認）名簿の五〇％を女性に割り当てるべきだということを言います。さらに地域区の女性の公薦比率を三〇％に、これについては、原則として確認されてはいるんですけども、それを実質化させなさい、と。つまり、地域区の女性の政党公認は三〇％以上とするという規定はあるんですけども、罰則規定も何もなく、ひどい政党になると、公認した女性候補の割合が三・一％というのもあったりする。あるいは三〇％公薦するけれども、女性は全員名簿の下位ということがあって、そういうことに対して批判をしています。

次に、政党に対して国庫補助金が出ますが、このうちの一〇％を女性政治家の力量強化のためのトレーニングに割り当てること。これをするのと政党に女性政治家を送り込めば、その女性政治家がプログラムを考えて、このお金を使います。これも非常によく考えてある、なかなかいい制度だと思えますが、こうした制度改革を集中的に要求していきました。

○政治関係法の改正

二〇〇二年と二〇〇四年に政治関係法の改正をおこない、先にあげた事項についてはほぼ全部盛り込まれ

ます。と同時に、特に二〇〇四年一月の政治関係法の改正では、女性の進出とも絡むんですけども、もつと大きな意味で、とにかく選挙はお金がかかる、システムの問題があるというところに切り込みます。

例えば、基礎議会（注一）の議員は無所属で出るようにしたんですけど、広域議会になると、首長は政党の公認をもらわないと出られないようになっていく。韓国の政治発展を阻害する要因として地域主義というものがあって、保守野党ハンナラ党は釜山がある慶尚道の方の基盤が圧倒的に強い。昔に比べれば、ずいぶん地域主義の基盤も弱くなっていますが、つい数年前までは金大中さん系列の党は、慶尚道の逆側の光州市とか全羅道では圧倒的に強いんです。そういった地域主義があって、全羅南道では民主党の公認をとれば通るし、逆に慶尚道ではハンナラ党の公認をもらえば通っちゃうんです。

で、どうなるかというと、公認をもらうために貢物をたくさんしなければいけない。それで、いくつかの自治体では首長が逮捕された。首長になるには政党の公認が必要で、そのためには巨額の金が必要です。ものすごく知恵を絞って悪いことしてお金を捻出しているわけです。お金は中央党に行くわけですけど、つかまる

のは自分なんです。中央の国会議員がハンナラ党の地方の首長から、お願いだから政党公認を止めてと泣きつかれるというようなことがありました。システムに根本的な欠陥があるんですね。

それで二〇〇四年の改正では、政策メインの選挙へと選挙を誘導しようということで、選挙運動に使える金額をものすごく引き下げた。今回、一七代国会に当選した議員の平均の選挙運動費用が確か数百万円レベルだという新聞記事がありましたがお金のない若い人もかなり出馬しました。同時に、不正が行われないように、中央選挙管理委員会の権限をかなり強めて、高額な報奨金を出すようにしました。報奨金というのは、どこかの候補からお金をもらう、韓国語でポイント（封筒）というんですが、候補者が票集めのためにお金を配る。また、贅沢な料理を振舞う。こういうのを選挙管理委員会にチクるんです。そうすると、チクった市民が受け取った費用の五〇倍の金額がもらえる。で、連日報道されるんです、どこどこでチクったAさんが五〇〇万円ももらった。これは効果てき面。市民は目をギラギラさせながら、どこかに賄賂ないか、チクってやれと（笑）。政治家はものすごくやりにくかったでしょうね。今回、ものすごく選挙法が厳しく

なっただけです。ばれたらものすごく懲戒が厳しくて、連座制などで、当選後にもずいぶん議員が辞めています。いずれにせよ、かなりクリーンな選挙になりました。

そこらへんの発想が韓国なんですよね。不正ができないようにするために、お金いっぱいあげちゃえばいいみたいな。人間の道徳性だけに頼るんじゃなくて、システムを変えて、根源的にそういう行為をなくすという発想をする。

その一方で、テレビの政策討論会など、さまざまな場所で行われる政策討論会にかなり国がお金を出して、政策主導で市民が選ぶ選挙にしようというシステムに変えました。

もちろんいろんな問題はあります。

二〇〇四年四月の選挙ではマスコミの問題が多かった。政策ではなくポピュリズム（大衆迎合主義）的な、聞こえのいいことを言う。今回は、ハンナラ党かウリ党かというので、どちらものすごい量のCMを流し、新聞もハンナラ党支持なのかウリ党支持なのかで、分かれて、キャンペーンをやりました。

選挙後には、そういうマスコミの報道のあり方に対して、NGOがかなり批判しましたね。つまり、そう

いう報道が市民を馬鹿にする元凶で、それは面白いかもしれないけれど、それではいけないと。ポピュリズム的に流れる政治風土というのをどこまで変えられるかというのは今後の課題です。ただ、確実に政治システムとしては進歩したと思います。

○総選女性連帯&政治改革市民連帯

～女性の政治参加拡大のための制度改革を推進

話は戻りますが、二〇〇四年の前段階の二〇〇二年一月の政治改革がかなり進んだことで、女性グループは大々的に転換をします。まず、「総選女性連帯」というネットワークを結成します。女性の政治参加を拡大するための制度改革をさらに推進するために、かなりロビー活動をします。

二〇〇六年に統一地方選があるので、その時までには何とか入れようとやっていますのですけれど、例えば今の小選挙区（一人区）を二つくっつけて二人区にして、各党は男性女性のペアで候補者を立てなきゃいけないとか、地域区の女性議員比率を五割にするとか、まあ、ちょっと難しいかもしれないですけどね。あとは比例代表の比率をもっと高めるとか、先ほどお話しした国庫補助金の一〇％は女性の政治参加のために使って

いいとなっているのを、女性候補が出馬するときの選挙資金に使ってもいいというふうにする。今は政党法では、国庫補助金は選挙活動には使ってはいけないということになっているので、その一〇％については外させる。優秀な人がいたとしてもある程度の費用はかかるもので、その部分を党の方で国庫からの補助金をあて、女性に関しては支援すべきだと、主張しています。それは現在も継続してやっています。

○クリーンな政治女性ネットワーク

～女性候補の推薦・支持運動

そして、積極的に女性の政治進出を押し進めるという「クリーンな政治女性ネットワーク」というのを構成しています。韓国の代表的なNGOファンドの一つである「韓国女性財団」が事務局を担ってかなりやりました。

女性と政治進出の関係で、ひとつ悩ましい問題がありますね。つまり、生物学的に女性だったら女性候補であるといえるのかという問題が、当然のことながら存在しますよね。逆に言えば、女性団体が推す「女性候補」の定義とは何なのかという問題です。女性だったら誰でもいいというわけではなく、議論としては

ろいろあるわけです。例えば、保守的な人は女性候補として推すのかどうかということですね。

彼女たちが下した結論は明快でした。「保守的だから駄目だ」という価値観で私たちは集まっていない。女性政策の進展のために女性議員を送り込んで、女性政策を実現し、世の中を変えていく、女性がよりよく暮らせる社会にすることに目的を絞っているので、保守党の中でも、そういうことに合意した人は支持をする。それから、基本的に道徳性がある、信頼性があるということと、社会的な弱者、女性だけでなく例えば障害者、特に女性障害者であるとか子どもであるとか、弱者に対する配慮ができるか、ということを基準に候補者として選ぶ」と。そのように、どういう人たちが女性候補といえるのかという基準を、この人たちが作っていきました。それにプラスして、自分たちが擁立または認定した女性候補の選挙運動を担っていきました。

○女性団体連合

女性公約の開発および各政党の女性公約の比較・評価

次に、「女性団体連合」は政策を主に担当します。女性公約の開発及び各政党の女性公約の比較評価をやります。既存政党に関しては、ナンセンスな女性公約

を徹底的に批判をします。保守野党であるハンナラ党についていうと、韓国には保育所が全然足りない。軍費はいっぱい使っているんですけど、その分、育児支援などの福祉・教育分野が劣悪で、文化関連の社会資本、例えば公園も全然ないし、図書館も日本みたいな小さいのが全然ないし、コミュニティセンターも少ない。そういうなかで市民が集まって協同組合のような形で保育所を運営している所があるんですが、そういった共同保育施設に公的な支援を入れるべきだというのはNGOの声としてかなりあります。それをハンナラ党は受け入れた。受け入れたんですけれども、こんなことを言うんです。「私たちハンナラ党が躍進すれば、共同保育をしている施設一〇〇〇カ所に予算をつける」とバーンと打ち上げるんです。ですが、実際には全国に七〇カ所しかありません。七〇カ所にしかないことを知っていながら、選挙用に一〇〇〇カ所とぶち上げるんです。それに対し、女性団体連合は、あなたたちの女性政策は市民をなめているのか、そういうポピュリズムに利用をするなどガンガンやるんですね。他の党に対してもクレームをつけます。徹底的に政策を調べてロビー活動もやります。と同時に自分たちの望ましい女性政策の開発をやって、二七項目の女

性政策をつくりました。

○女性有権者運動を積極的に展開

そういう形で役割分担をしながら、上記の三つの主体が、全体としては、女性有権者運動というのをやるわけです。つまり、女性が政治参加をすること、投票することがどういう意味があるのか、今、どれだけ変えるチャンスになっているのかということ。そのためにはどういう政策を起こそうとしているのか。どの候補者が選ぶに値する候補者か、というようなことをキャンペーンをやつて、投票しようという運動をやつていくんです。上記のように、「総選女性連帯」、「クリンな政治女性ネットワーク」、「女性団体連合」という、この陣形です。

資料の写真ですが、これは、「四・一五 クリンな政治女性キャンペーン」と書かれています。「よく見よう、よく選ぼう、一気に変えよう！」と書いてありますね。V7キャンペーン (VOTE7 Campaign) といって、選挙の日からさかのぼって一週間に限ってやるんですよ。メディアを使ってテレビで取り上げさせたり、新聞に取り上げさせたりという形で、全国各地で連鎖的にワーツとやりました。

韓国にはフェミニスト議員連盟のようなものではありません。今回、議員を中心としたネットワークはいっばいできましたが、なにしろ地方は女性議員の比率が低いので。ですが、女性団体連合がNGOのかなり専門的な役割ができ、しかも全国各地にあるのが強みです。ソウルや東京に一個大きい組織があったって駄目なんです、水平的で、皆で心合わせてできるシステムが必要なんです、その大きな役割として女性団体連合があるというのは、日本との差かなという気がします。

○「クリンな政治女性ネットワーク」の成功

二〇〇四年四月の国会議員総選挙では、比例代表に関しては女性が二九人当選しています。男性が二七人で、女性の方が五二%で比率という上ですね。ですが、比例代表自体が少ないですね。これでも以前よりは比率的には上がって、全議席(二九九議席)の中の比例代表の議席の割合が一九%くらいですが、これは現在の国政レベルの話であって、地方議会に行くともっと低いのが現状です。地域区に関しては女性が一〇人当選し、地域区選出議員数の四%にしか過ぎません。地域区では、男性が二三三人で九六%ということ

になります。地域区では、女性をほとんど公薦（公認）していませんね。比例代表では、男性より女性が多いですけど、地域区では随分と差があるのがわかりますね。

さて、この当選者のうち、「クリーンな政治女性ネットワーク」が推した人たちの割合が比例区では女性一〇人中三人で三割。地域区では女性二九人中一八人で、かなりの高率になっています。「クリーンな政治女性ネットワーク」が影響力を發揮した結果といえるでしょう。

今、「クリーンな政治女性ネットワーク」を舞台に、当選した人たちが、今後、女性議員としてどんなことをするのかということでネットワークができています。今後のパフォーマンスに注目したいところです。

● 質疑応答から

Q ロビー活動はどのようにしているのか？

A 今回大躍進をしたと言っても女性議員の比率は一三%なので、男が圧倒的多数であることは変わりないんです。ただ、戸主制廃止に関しては、今年の三月に通ったんですが、基本的に各政党の議員一人ひとり

を回って、賛成するか反対するかを全部NGOが調査して一覽を出して、メディアにもかなり露出して、賛成の人を誉め、反対の人を追いつめるような形でやっていくのです。

選挙の期間中ですが、あなたが当選したら戸主制廃止に賛成するか反対するかということ、開かれたウリ党は、改選前四〇議席しかなかったんですが、そのうち三八人は自分たちは戸主制廃止を実現すると答えています。女性ももっと暮らしやすくなるべきだ、ということを出すわけです。男性でもそういう形で啓蒙されている人が多い。その人たちが選挙の結果、議会内の過半数を押さえたことで、女性政策課題が前進しているということはあるでしょうね。

ロビー活動もかなり注意してやっています。「女性の利益」というのは、女性だけの利益ではない、多くの人の利益になるんだと訴えていくとか、社会のどこにターゲットにして活動していくか、どういう反撃が予想されて、予想されるリスクをどのように回避したり分散させていくかとか、かなり戦略的にやっています。これは日本のNGOの友人の言葉なんです、「韓国の女性運動ってマッチョじゃない？」と。このニュアンス、なんとなくわかります？ まあ、非常に

戦略的なんですよ。ただ、それによって結果を出している、そういうやり方はある意味では必要。特に、日本で、必要なのではないかと。

Q 女性団体連合は組織的にどうなっているのか、スタッフに給料を払えるくらいの会費があるのか、予算はどのくらいか。

A 韓国のNGOは九〇年代に急成長しましたが、女性団体連合はその前、八七年にできました。一九八七年は、全斗煥大統領が辞任して選挙をしようと言っていた年です（全斗煥はクーデターを起こし、光州で二〇〇〇人くらい市民を殺した人）。ところが、選挙をしたら勝てない状況になっていたので、全斗煥は選挙をやらないで、院政を引こうとした。そこですごい民主化運動が起きて、大統領は直接選挙制——市民が自分たちの代表を選ぶという制度に変わったのです。

それまでは女性労働者はかなり劣悪な状況に置かれていて、労働運動や民主化運動の中に女性の問題はずっとあったのですが、女性だけの組織を作って突き上げようとする、抑えられてきた。つまり、軍部独裁の打倒・民主化という価値のほうが女性という価値よりも上なんだと、女性が勝手なことをすると隊列が乱

れて民主化が勝ち取れない、だから女性の問題はひとまず我慢しなさいという論理です。陰に陽に。これは在日コリアンの運動の場合もそうだったし、どこにもあります。煮え湯を飲まされる思いが女性たちにはずっとあって、そこから女性運動の柱が作られてきました。各地で民主化運動を闘った女性たちが、女性ホットラインを設けたり、性暴力被害者の救済とか、多様な女性運動としてのアイテムを開発してきたということが、女性団体連合の背景にあります。

給料に関しては、NGOの中ではいいほうです。女性団体連合、環境運動連合、参与（サンヨ）連帯など韓国のNGOの中では、「スター級の団体」と呼ばれているところですからね。それなりの給料を貰っているはず。財源は寄付も多いが、女性団体連合はかなり工夫して金集めをします。

ほぼ寄付だけでやっているのは参与連帯。参与連帯のオフィスには「民主主義の壁」があつて、これは全部の政治家の個人ファイルで、国会に何日出たか、何を発言したか、過去つかまつてどんな判決を受けたか。政治家だけじゃなくて、検察官、判事のファイルもあります。このデータを基礎にしながら落選運動をやっています。この団体がなかったら落選運動もできなかつたんです。この団体がなかったら落選運動もできなかつたんです。

ったでしょうね。ここは権力と喧嘩をやるために作ったNGOなので、お金はどこからも一切もらっていません。ほぼ一〇〇%市民からの会費でまかなっていて、年間大体一億二千万円くらい。

選挙がらみで面白いのが、二〇〇四年の選挙で民主労働党という社会民主主義の政党、左派政党が初めて議会進出を果たしたんです。八〇年代末からチャレンジして、今回通ったんですけど、民主労働党は数万人の党員がいますが、日本円で月五〇〇円程度の会費を、毎月数万人がきっちり納めるんです。ですから、政策討論会をやったときに、ハンナラ党やウリ党の議員が、民主労働党の候補に対して「正直言うとおんたたちがうらやましい」と言うんです。彼らは無駄な金集めを一切しなくていい。政治家って、問題のある現場に行つて調査をして政策を作つてということをやっているかという、ほとんどの政治家は、たぶん本人もやりたくない金集めにウエイトを置いているはずですよ。

女性団体は、今回民主労働党の候補も三人くらい推薦しましたが、かなり横断的に保守党も含めて女性候補を推薦し、女性課題を政策化しているところがあります。今は自分もフェミニストだという男性議員も多くて、それが宣伝材料になると思えば、政治家

というのはそう振舞うもんですが、そういう人が増えてきたこと自体も、それは女性運動の成果なんだけれど、本物じゃないヤツは、女性が力をつけてきたときにバックラッシュしてくると思います。それは彼女たちも厳しい状況をわかつていて、それを警戒して、気をつけなきゃね、という話をしていましたね。

Q 日本が一・二九という出生率ですが、韓国は一・二一を下回つたようですが、その問題はどのようにとらえられていますか。

A 離婚率が高いですね。フランスに次いで世界で二位だと聞いています。四〇代後半までの世代はほとんど離婚しないが、それからは凄い離婚率なんです。価値観ががらつと変わったので、どなたが社会的に適正かをつかみかねているということもあって、少子化、高齢化の問題が急速に進みつつあります。少子化の問題に関しては、女性団体で二七の政策リストをつくっていますが、教育の問題に関しては、教育施設、教育に対する公的な費用の補助、子育てのような家庭政策のところという、両性平等な家庭モデルをいかに社会的に作つて定着させて制度的に支援するかというのが、ひとつ課題なんです。例えば、男性の育児有

給休暇を取れるように、いかに企業に網を掛けるか。ある程度強制させないと取れないので。それから女性が子育てを終わったときに復帰できない。課長職以上に上がった人は、私の友人の中にもずいぶん多いんですが、一回辞めて戻ったときには、それまでのキャリアは全く認められないんです。そういう女性労働の問題をどうするかというのも課題ですよ。

Q 戸籍法改正で別姓になって、その後の社会への影響というのはいかがか。

A 複合的で難しい質問ですが、まず、お話ししてきたようにどんどん変わっていつている。それからNGOが力をつけてきているのは確かで、それはある意味でいいことだと思っています。どういう意味でいいと思っているかという、市民社会といった時に、日本では一人ひとりの賢い市民がたくさんいる社会というイメージなんですけれど、一人の人間って弱いですよ。現実には一人ひとりの賢い市民が一人です。一人ひとりの声なき声、明確に言語化されない不満を政策化していくような中間媒体としてNGOが必要で、問

題に取り組み、その分野では専門性をもっているNGOがいっぱい社会に出現することで市民側として必要な政策というのが出てくるはずだと思っております。一人ひとりの弱い市民と政党が直で結びつくというのは無理ではないかと思えます。だからNGOが成熟するというのはいくくいいことで絶対必要だと思われ、韓国ではそういうことができています。ただ、一方で、北朝鮮との問題が未だにある。徴兵は二年くらいですが、給料はほとんどないに等しいくらいです。そういうふうにしなないと維持できない。そういう北朝鮮との対立に回している資源を他の分野に回せないという問題がある。

韓国のNGOの人は、社会はかなり良くなったけど、一番最後まで変わらないのが教育権力だと言っています。学校の問題が深刻で、立身出世の教育が強くて、日本より強い。最近になって、「代案（オルタナティブ）教育」を行う学校がいくつかできていますね。もう一方で、韓国は日本に比べて小さい国です。人口も国土も日本の三分の一くらいです。そんなマーケットに無尽蔵に雇用はないんですよ。ましてやグローバルスタンダードと自由化の波が押し寄せてきて、労働市場もかなり自由化して、契約社員・派遣労働がものすごく

増えているという中で、安定的な新しい労働慣行やオランダのような社会統合は実現していない。未だに韓国は移民送り出し国です。韓国にくる外国人が定着するよりも、韓国から出て行く人の方が多いんです。アメリカ、カナダへ出て行く。南アにも韓国人がいる。南アでお金をためて英語を勉強して、ワンクッション置いて北米へ行くらしいんです。そういうことも含めてかなり脱出している。

そのような急速な社会変化や社会問題をどういうふうに安定化させるのかということが課題として問われています。もちろんNGOだけの力ではできないと思います。政治の問題、行政の問題としても、こうした課題にどう答えていくのかが問われているということだと思います。

○日本と韓国との関係

Q 教科書、靖国問題に対しては。

A 日韓が近くなったと思っていたら、積み残されている問題がいろいろありますね。島根県議会が馬鹿なことをやりました。国益という言葉はイマイチですが、国益すら損なっていると思います。そして、政治家であるならば、損なわれた国益に対して責任を取る

べきですよ。また、韓国でも、馬山市議会が、今度は「対馬の日」というのを条例で可決しました。島根県議会も馬山市議会も、主導した政治家たちは、私からすれば、無責任で、視野が狭く、幼い。政治であれば、そういう政治行動の先にどのような利益を現実的に獲得するのかというビジョンが必要です。三月一日以後、領土問題が吹き上がってから、一番状況がヒートアップしていた三月三〇日から四月中旬まで、日本のNGOや研究者と一緒に韓国の沿岸を視察調査に行きました。海岸の調査なので、韓国全土を一周しました。特に南海岸は、秀吉の朝鮮出兵時の傷跡を残す遺跡などがたくさんありますし、私たち日本の一行に何か食ってかかられたりするかなと思って、用心していました。何かあったら僕が守らないといけない、「この人たちはいい日本人だと言おうか」とか、いや、それはあまりにもまぬけすぎる受け答えだなとか、いろいろと考えながら行つたんですが、結果的にはひとつもそんなことはなくて、タクシーの運転手さんに領土問題をどう思うか聞いてみたら、「市民レベルではたくさんつながっているから、いい部分をお互いに生かしてもっと理解しあつていくしかないよ」と言われて、えらいなと思つたんですけどもね。

韓国滞在中に、青年NGOにベンチャー企業の人間が営業に来たんです。今度のワールドカップ予選の韓国との試合を独島（竹島）でワイドスクリーンで皆で見ないかと、お金は全部自分たちが出すから、という営業をかけてきたんです。企業は、独島が自分たちの領土なんだということを出す、コマージュとかを組みたいわけです。私の友人であるそのNGOの彼はどう応えるかと見ていたんですが、彼は、「日本の人が竹島を韓国のもつと認めなきゃいけないでしょ。それは日本の人を相手にやりなよ。韓国の人はそう思っているんだから。単にあんたらは煽りたいだけでしょ、宣伝したいだけでしょ」と話をしていて、韓国の若い人にも彼らのような人が増えて来たんだなと思いました。

ネットの世界でいうと、ホームページを作っている人が日本人だというと、ワーツと書き込みされたりとかもあります。でも徐々に交流も深くなっていて、いろんな情報が行くことで、冷静になってきている人がずいぶん増えてきている。かといって、日本の政府の過去の問題の処理の仕方に関しては間違っているということがありますね。

韓国の状況は、そんな感じなのですが、一方で、私

は、韓国と日本だけでは解決できないのではないかと思っています。今考えているのは、チェコとドイツが九七年に和解をした話です、ドイツが負けたときにチェコにいっぱいドイツ人が住んでいて、その人たちが着の身着のまま追放され、その過程でたくさん人が死んでいるんです。その人たちを追いつめて川から落として、十数人も機関銃で撃ち殺したという事件もあるんです。それを被害国であるチェコのハベル首相が謝罪しました。それはチェコ国内ではものすごい攻撃の対象になるんです。まず、チェコ内の左派からも右派からも攻撃され、ドイツ内の追放民からも攻撃されます。ハベルなどの政治家・知識人たちがいうのは、チェコ人が犯した罪に対して、人権とか人間という価値観から捉えて反省をできるような批判意識がないことによって、自分たちはナチスドイツに支配されて、それが終わったと同時にソビエトの全体主義に支配されたのではないか、いとも簡単に、と。しかも間違っていることはいっぱいあったのに、自分たちはそれに合わせて黙ってきたじゃないか。それが我々が追放民に謝罪しないということとつながっているんだ、ということ国内でそれをまとめ上げ、ドイツと和解宣言をするわけです。読み間違ってもらっては困るんですが、

この例を通じて、韓国が謝ると言うことが重要だと言っているんじゃないかと、そういう高みにたつたまとめ方というのが必要な時代に来ているんだと思ってるわけです。日本でもごく一部、学者などもそういう考え方の人がいるんですけど、その分野は全然研究もされていません。市民運動の中でもそういう発想がなく、韓国でも同じです。ですから僕は、両方で、そういうことがあるし、可能なんだということを仕込んでいこうかなと思っています。

ドイツ、ポーランド、チェコ、ベラルーシ（旧白ロシア）と追放民は全部の国に逃げています。ドイツには追放民の協会があって、バイエルン州などでは、キリスト教民主同盟（CDU）の大きな母体になっているんですけど、そこが、追放民の記念館をドイツのベルリンに作れと言っている。それに対してポーランドの人たちが、アホかと批判するわけです。ベルリンになど、追放民は行ったためしがない。追放民とは何の関係もないベルリンに、なぜ、追放民の記念館を建てるのだと。建てるんだつたらドイツが追放したさまざまなの、民族の人たちも含めて、ドイツ人だけではない、すべての追放され、さ迷い、傷ついた民を歴史に刻んで、どれくらい犠牲があったか数字を確定し、平和

のための記念博物館を建てるべきだと。それが不戦の誓いであり、和解の象徴なんだと。だから追放民の記念館を建てるのであれば、すべての追放民の通過地点であった中心地、ポーランドのクラコフに建てるべきだと言っている（注2）。

こういう発想が、東アジアにも必要なんです。韓国、中国、日本がこういう発想に立つて戦争の問題をクリアして行けたら、大きな可能性があると思います。

（注1）特別市・広域市（日本で言えば政令指定都市にあたる、ソウル特別市、釜山特別市、仁川広域市など）に加えて、各道（京畿道など）の議会は「広域議会」、それ以外の地方議会は「基礎議会」と区分されている。

（注2）ポーランドはドイツの植民地にされ、国家は消滅。殖民者が入ってくるドイツ人の圧力によって多くのポーランド人が東方（ベラルーシ）や、南方（チェコスロバキア）へ実質上追放され、チェコ人も同様の憂き目にあった。逆に、ドイツ敗戦後は、ドイツ人たちが各国からドイツへ追い出された。こうしたあらゆる追放民の通つた要衝の地がポーランドのクラコフという街である。

韓国女性運動の資金づくりに学ぶ

——韓国女性財団の活動を視察して

柳川 眞佐子 (NPO G. Planning 会員・あびこ女性会議)

はじめに

「NPO G. Planning」では、隔年で海外の女性施策の視察研修をおこなっている。二〇〇二年のアメリカDV関連施設視察では、裁判所など司法関係と被害者支援施設、子どもの支援施設、加害男性のためのプログラムをおこなっているNPO、医療現場と、それらをネットワークで結んでいるタスク・フォース（専門家会議）等を訪問した。この視察ではアメリカの最新事情とともに、タスク・フォースがDV被害者の支援とDV防止の鍵になっていることを知り、日本のDV防止に有効な情報を提供できたと思っている。この研修の報告書とビデオは各方面で活用し

ていただいている（注1）。

二〇〇四年の七月、海外研修第二弾として、遠くで近い国、韓国の女性施策の視察研修を企画・実施した（全国フェミニスト議員連盟と共催、参加者は二六人）。伝統的な儒教文化が根強く残る国にもかかわらず、女性施策は日本に追いつき、あつという間に追い越している。視察先は韓国女性部（省）、韓国女性開発院、韓国女性連合、韓国女性財団、韓国女性ホットライン、ソウル女性ホットライン、韓国性暴力相談所、ナムムの家の八施設である。それらは相互にネットワークを結び、戦略を立て効果的に女性施策を推進していた。

本稿では、その中でも特に、韓国の女性施策を経済的な面をサポートしている韓国女性財団（Korea

Foundation for Women) について紹介する(注2)。

1. 韓国女性財団の設立と経緯

一九八〇年代、韓国の民主化にともない、男女平等や女性差別の撤廃、女性の地位向上を目指して、女性問題をテーマにする数多くのNGOが生まれたが、その多くは活動資金を集めるにも苦労していた。これら社会にとって大変有益かつ重要なNGOの活動を経済的に支援するために、一二四のNGOと篤志家が資金を拠出して、一九八一年一月に財団が設立されたのである。二〇〇〇年から活動を開始して、現在約七八億ウォン(約七億八〇〇〇万円、一〇万ウォンが日本円でおよそ二万円)の資金を集め、二〇〇一年からは配分事業(支援事業)を実施している。財団の組織は、企画・広報、配分、総務の三つのチームに分かれている。

2. 資金集め(企画・広報チーム)

韓国女性財団は、韓国における民間の公益財団の第一号で、企業の社会貢献や、市民の寄付文化を育成す

ることに力を入れている。

① イベント募金

イベントを企画して、それに企業が協賛して収益から寄付をするというもので、なかには日本のアーティストとの協賛もあった。

② 企業募金

企業もNGOもそれぞれ社会的なミッションがあるので、その実現のために協力関係を作っていく、財団がその出会いの場を提供するというものである。

たとえば女性財団自身が韓国の最大の生命保険会社K生命と一緒に企画した「短い旅行、長い息継ぎ」は、女性活動家が燃え尽き症候群にならないように、NGOの女性たちに休みを与えて、海外留学や観光のための資金を援助するというものだ。その時、たくさんの団体のスタッフが参加することで、団体同士のネットワークができたり、コミュニケーションが図れたりする。それを財産として、またリフレッシュして仕事に復帰するという企画だ。これは非常に好評で、成果も上がっている。K生命は総額で一億ウォンを寄付している。このように女性財団は、企業のミッションとNGOのミッションがしっかりマッチングした上での協働を重視している。

また韓国でも、社会貢献という理念を打ち出す企業が増えているが、市民公益活動を支援する財力と意思のある企業を発掘し、サポートを必要としているNGOとマッチングすることも、いま財団が重視している活動だ。

事務所の壁にびっしり並んでいたパネルは、企業との協働の成果を示すものだった。たとえば前記K生命のパネルは「ピン・プロジェクト五台」。これはK生命が最初に寄付したもので、NGOがイベントをするときに使える屋外用のプロジェクトだ。女性財団がこれが必要な団体に送り、その団体は利用するだけでなく、他団体に貸し付けて活動資金を得ることもできるのだ。

また、女性財団の働きかけで、U社は、経済的に困難を抱えている女性が勉強するための奨学金三〇〇万ウォンを寄付した。この「U奨学金」プログラムは、いまも続いている。

また、外国人と女性という二重三重の被害を受けている、外国人の女性労働者のための支援プログラムも実施している。たとえば、韓国社会に適応するための韓国語学習プログラムや、性的身体的な被害の救済プログラムなどをおこなっている。

③個人募金

個人募金には、いろいろな職業や階層の人を対象にしたユニークなプログラムがあり、そのネーミングにも感心した。

給料の一分かち合い——勤労者が毎月、給料の一分を財団に寄付するというもの。これは個人加入と事業所加入があり、事業所加入の場合は企業が全体で一分を寄付する。この場合「娘たちに希望を与えてくれた仕事場」というプレートが財団から贈られ、これを掲げると、その事業所が社会貢献していることの宣伝になるという。このプログラムは現在広がっており、国会議員の事務所が加入し、そこだけで四八億ウォン（約四億八〇〇〇万円）の寄付が集まっている。

遺産の一分かち合い——遺産を相続したときに、その一分を寄付するというもの。これはプログラムとしてはあるが、たとえば山林が遺された場合など、検討すべき課題があるとのことだった。

印税の一分かち合い——小説家など本を出版する人が、印税の一分を寄付するもの。

才能の一分かち合い——お金ではなく、いろいろな技能を持っている人が、自分の才能で社会に貢献するというもの。たとえば女性財団がおこなうイベント

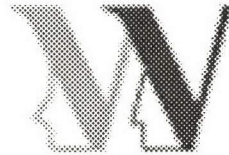
のときに芸能人が無料で司会をするとか、有名なカリスマ美容師が、毎月スタッフを連れて子どもや老人の施設で、入居者の髪を整えたり、おしゃれをしてあげたりするという。また、これらがマスコミに取り上げられ、財団や寄付文化の宣伝にもなっている。

娘たちに希望を与えるお店——「娘たちに希望を与えるお店」というプレートは、一般の食堂などで、売り上げの〇・〇一%を基金に寄付してくれるお店に贈られる。一店当たり月に五万ウォンから一〇万ウォンぐらいになり、現在、参加店がどんどん増えている。

財団の中に小さな財団を——これは、社会貢献をしたいという気持ちもあり、お金もあるが財団を創立するほどの額ではないというとき、その人の意思と名前を継いだ形で女性財団の中に基金を作るもの。女性財団の理事イ・ギリヨさんも三〇〇〇万ウォンの寄付をして、イ・ギリヨ基金が設置され、財団が彼女の意思、つまりどういう人にどういう使い方をしてほしいのかに適ったプログラムを作り、管理運営をしている。

新しい命・新しい希望の分かち合い——全国の産婦人科の医師と協力しておこなうプログラムで、女性財団は、できるだけ自然分娩で、という要求を出している。そして、このキャンペーンに参加している産婦人

科では、子どもが生まれるたびに、新しい命と希望に対して、基金に五万ウォンとか一〇万ウォンの寄付をする。



また、上図は韓国女性財団のロゴマークだ。公募による市民のデザインで、ウーマンのWとマンのMが同じ方向を向いている。これを大小のバッジにして五〇〇〇ウォンで販売し、購入した人は寄付になると同時に両性の平等を目指しているという意思表示になるといふキャンペーンをおこなっている。

こうして、女性財団では知恵を絞っているいろいろなアイデアを出し、募金活動を進めているが、一番大事なのは、どう使うかということだという。

3. 資金の配分（配分チーム）

基金の配分先は、Ⅰ両性の平等社会を創造するための事業と、Ⅱ疎外されている女性を救済するための福祉分野に対する事業の二つに分かれる。さらに次の六つのジャンルに分ける。①二一世紀の男女平等社会の風土を作り出すための意識開発②経済発展のための女

性の能力開発③疎外されている女性のための活動④女性の政治能力の開発⑤国際社会における女性の活動⑥女性運動の支援。

この六つのジャンルの中で、さまざまなNGOが応募してくるが、配分委員会で厳正な審査をして資金を配分する。配分委員会は女性リーダー、法律家、社会福祉の専門家たちで構成され、書類の審査だけではなく実際に現場に行つてインタビューすることもある。

主に経済的に恵まれていない子どもなどに支援をおこなっている他の公益的な財団と異なり、女性問題は、訴える対象としてはインパクトに欠け、募金が難しい。それらの事業に対して、今まで一四億ウォンを支援してきた。

公募事業に選定されると中間報告を提出することになつている。また財団の職員は現場に行つて、資金が有効に使われているか、実際に何に困っているか、現場のニーズを汲み上げるために実査する。たとえば、先述の「短い旅行、長い息継ぎ」の実施の中で、遊びに行く参加者のために各団体の事務担当者が苦勞をしているのは矛盾しているという声が出て、彼女たちのために、豪華なホテルで高度な研修プログラムをおこなつたそうだ。現場のニーズを汲み上げるといふのは、

こんなところにも出ている。

また、公募事業に通つた団体に対して、資金を助成するだけでなく、テーマごとに団体を超えてワークショップをつくり、お互いのノウハウや情報を共有して、今後進める事業がより円滑に進むような機会を設定している。

さらに女性財団では、各団体自身が資金を集める能力を高めるための研修もおこなっている。それぞれの団体が強くなつて自立していくためにさまざまなプログラムを企画し、アメリカから講師を呼んで国際会議を開催するなどの事業もおこなっている。

4. 今後の活動と課題

事務所の壁に真っ赤なりんごが一〇〇個描かれていた。女性部（省）の長官の名前も見えるが、この一〇〇個のりんごに一〇〇人の人の名前が書いてある。これは女性財団が二〇〇三年五月の募金のためのキャンペーン月間に始めた一〇〇人寄付リレーというプログラムだ。この一〇〇人がリレーの第一走者で、寄付すると同時に二日目に寄付する人になつて、そして二日目の人は寄付すると同時に三日目に寄付する人に連絡

する。こうして五月三十一日には三二〇〇人が寄付することになるというキャンペーンだ。二〇〇三年は最初の年ということでテレビでも放送された大きな反響を呼び、大口の企業献金もあった。最終的に一五〇〇人が参加し、一億五〇〇〇万ウォンが集まった。二〇〇四年は二二〇〇人が参加し、一億二〇〇〇万ウォンだった。金額は減ったものの、寄付をした人数が増えているので、財団としては評価しているようだ。

このように、現在財団がもっとも力を入れているのは、企業とNGOとのマッチングとともに、韓国の寄付文化を育てることだという。そしてファンドレイジングではなくフレンドレイジング、すなわち基金を起こすのではなく、友情を起こすというポリシーを持って、少額の寄付者を育てていくことに知恵を絞っているとのことだった。

つまり両性が平等になる社会を作り上げるといふ財団の目的のために、志でつながったサポーターをいかにつくっていくか、現在は企業からの寄付が八割を超えているが、少額ではあっても、個人の寄付者をどのくらい増やせるかが今後の課題だろう。

最後に政治とお金の問題について触れておこう。二〇〇四年四月の地方選挙で、女性の議員を増やすため

に、イデオロギーを超えて三二一の女性団体がネットワークを組んだ。その中心になったのは韓国女性連合だが、女性財団はこのネットワークの資金面を支えた。韓国の選挙法により直接の資金援助はできないので、女性候補の演説会の開催や、当選した三九人の女性議員とNGOの懇談会の費用に使われたそうだ。またこのネットワークでは、これらの女性議員をどう応援していくか、また見守っていくか、検討中とのことだが、そのプログラムを作るのは別の団体で、財団はあくまでも資金面のサポートとのこと。団体間の役割分担が興味深かった。政治のほか環境、経済などの分野でも女性リーダーを育てるためにネットワークが組まれているが、その資金を社会から広く集めるのは女性財団で、プログラム作成は別の団体の役割なのである。

終わりに――

韓国女性財団の事務所は、私たち視察団の二六人全員が座る場所もないほど狭いところだったが、大歓迎をしてくださり、充実した時間を持つことができた。

事務総長カン・ジョンヒさんは包容力のある親しみ深い素敵な女性で、誇りと情熱をもって財団の理想と

事業を熱心に語ってくださった。この訪問で印象的だったのは、とにかく財団のスタッフの知恵と情熱だった。社会に有益な活動をしているNGOを支えるために、あらゆる知恵と方法を使って資金を集め、それを必要などころに送り、またNGOが自立するための支援を企画する、その意志と行動力、実行力に脱帽した。財団の理事長の言葉という「お金を差し上げる手は謙遜して、お金をいただく手は卑屈にならず」というポリシーと、全国の女性NGOに希望を与えているという誇りが彼女たちを支えていると感じた。

日本にも女性のための基金がいくつかあるが、この韓国女性財団ほどの規模の大きさと社会に対する影響力を持った団体はない。彼女たちの成功の理由は、この次々に展開する事業と、それを可能にする人材だと思った。私たちが話をきいている隣では、ボランティアの学生たちが働いていた。企画・広報、配分、総務、それぞれのチームのリーダーたちも才能にあふれた女性たちだったが、その後には続く若者たちを育てているということにも感銘を受けた。

お忙しいなか、私たちのために駆けつけてくださった財団の理事長パク・ヨンスクさんは、「設立して五年間で四〇〇のNGOを支援してきたが、今後は日本

と韓国を含むアジア圏で、女性たちが手をつないで協力関係をつくり、連帯して女性の地位を上げていきたい」と私たちに呼びかけてくれた。

日本ではいま、全国的な逆風を受けて多くの困難がある。しかし私たちは、唐辛子のように熱い韓国の女性たちと連帯し、彼女たちのように粘り強く、国際的な視野を持って、真の男女平等を目指したいと思う。

(注1) 小誌掲載の木村民子さんのアメリカDVD関連施設視察報告(二〇〇三年一・三月号)及び、韓国の女性施策の視察研修報告(二〇〇五年一月号)もあわせてご参照ください。

(注2) 韓国女性財団 (Korea Foundation for Women)

<http://www.womenfundor.kr/english/>

5F Kookmin Bank Building, #1687-1 Seocho-dong,

Seocho-gu, Seoul, Korea

Tel: 82-2-595-6364 Fax: 82-2-595-6397

E-mail: yiyouni@womenfundor.kr

(注3) 韓国の視察先の詳細な報告書(五〇〇円)とビデオ

(一〇〇〇円)のお申込みは、NPO G P l a n n i

n g 事務局柳川 (FAX)〇四一七一八三一九九三六)へ。

(<http://www4.family.ne.jp/~namikosi/GP/>)

連載 新・オホーツクの強風荒く

新年度もまた奇休編●15

五〇凡太郎

(首尾休業で主父・学生)

小2の娘は今年度から、某大手の通信添削教材を始めました。私は反対でした。なぜなら、自分が高校時代にとり続け、添削を一度も出したことがないまま終わったからです。我が人生の大いなる無駄、親不孝のひとつです。

さて、小学生向け教材は、あの手の手でやる気を出させる、あざとい小技が満載です。娘はすっかりその気になって、教材を「はい!」と持ってきました。なんと! 日々の学習添削は親がするのです。なんだそりゃ?! 赤ペン先生に出すのは月に一回で、あと

は親が見るのです。「丸」ばかりであればいいのですが、そうはうまくいきません。

父「これはね…」

娘「あー、わかった、わかった」

父「ちがつって!」

娘「パパじゃわかんない」

父「ちゃんと話を聞け!」

娘「もーいいい!」

お金を払って親子喧嘩してる感じですよ。小学校勤務の母の帰宅後、母と娘のたたかいに…。

さらに、母「ちよっと! この漢字なんで丸なの? ちゃんと、書くところ見た?」父「字になってるからいいんじゃない?」母「だーめ! 書き順はちゃんと、『止め』と『はね』を見ないと」父「あのねえ、あなたは日々学校で教えてるから、たまたま詳しいけど、家庭学習でそこまで細かく言うか?」母「そーいっ感じだとあなたみたいになるんだよ! 書き順めちゃくちゃでしょ!」…なんで、こんなことで

口論しているのかアホくさい話です。

そんなこんなで何度が家族でもめた結果、どうにか互いの妥協点を見だし、少し落ち着いたと思ったら、そこそこ真面目に取り組んだため、学校よりどんどん進んで、「独習」という感じになりました。この教材をうまく使える人は、学校教育に「学力」向上を期待していない人なのだと思います。そうは思わない私としては、てきとうな理由をつけて辞めさせようと思った頃に、娘は入院してしまいました。

こうなると事態は一変。「独習」するしかなく、娘も口答えするほど元気もないので、父の添削でもそこそこ機能し、一ヶ月のプランクで学校に復帰してもさほど遅れることなく済んでるようです。親子2代で、「投資」して、はじめて「元を取った」気がしました。一方、父(私)のほうは通教で「赤ペン」にこてんぱんにされ、このところペンシの日々でした。再提出の結果やいかに…。

□授業実践□
家庭科 風がかわる 匂いがかわる

「自立」を 考える授業

越智 紀子

おち・のりこ●公立高校家庭科教員

かけらはひとりで座っていた
誰かがやってきて

どこかへ連れていってくれないかと
待ちながら

『ビッグ・オーとの出会い——続ほ
くを探しに』（シエル・シルヴァス
タイン作、倉橋由美子訳、講談社）
より

これは、絵本『ビッグ・オーとの
出会い』の冒頭部分です。三角形の
「かけら」がじつと座っているとこ
ろで始まる物語。この絵本を、家庭
科の最初の授業で使っています。家
庭科の大きなテーマのひとつである
「自立」を考えるきっかけになると
思っています。

四月の最初の授業、「家庭科とは
……」などと語る前に、この絵本をひ
とりに一冊配ります。自己紹介もそ
こそこに、「とにかく、読んでみて

ください」というと、配られてすぐ
に教室が静かになります。一本の線
で描かれた単純な絵なのですが、読
んだあとに心に何か残る、そんな物
語です。

ここで簡単にストーリーを紹介し
ます。

三角形の「かけら」は自分で動
くことができない。

「かけら」は、自分を動かしてど
こかに連れて行ってくれる「誰か」
を待っている。自分ではまると丸
になる「誰か」に拾われて、転が
っていきたい。

欠けたところのある「誰か」は
たくさん通り過ぎていく。いろん
な「誰か」の一部にはまって転が
ってみようとすると、うまく
いかない。いろいろ試して、そし
て、ついにびつたりの「やつ」に
出会う。いい感じでびつたりとは
まって一緒に転がるのだけれど、

「かけら」は急に大きくなり始める。「やつ」は「君が大きくなるなんて知らなかったよ」という言葉を残して去っていく。「かけら」はまた一人になる。

そこへ様子の違う「ビッグ・オー」がやってくる。「ビッグ・オー」は丸くて欠けたところがなく、一人で転がってくる。

「ぼくが待っていたのは君らしい。」と「かけら」は言う。しかし「ビッグ・オー」は「ぼくはかけらなんか探していない。君のはまるころなんてないんだ」と答える。

「君ひとりなら転がっていけるかもしれない」尖っているから転がれないという「かけら」に「やってみたことはあるの?」と言って「ビッグ・オー」は行ってしまふ。

「ビッグ・オー」の言葉に、「かけら」は一人で転がってみようとチャレンジを始める。はじめは三

角形だからうまくいかないけれど、やってみると少し動く。繰り返すうちに、角がとれて丸くなる。

そして、自分一人で転がっている……気が付けば、小さい丸になっている。傍らには「ビッグ・オー」が転がっている。「かけら」は一人で転がっているけれど、一緒に転がっていきける。

ゆっくり読む時間をとった後、少し質問をしてみます。

「好きな場面はありますか?」

「こんな『やつ』いるいるって思いませんか?」

『「かけら」の意識を変えるきっかけをくれた『ビッグ・オー』は何だと思えますか?』

これにはいろんな答えが出てきます。恋人だったり、友達だったり、先生だったり、家族だったり……。中には、好きなアーティストの歌とか、大好きな本など、「人」には限らな

い答えが返ってきます。

「では転がるって何だと思えますか?」

そうやって、いろいろ問いかけてみると、どんどん話は膨らんでいきます。自己紹介を兼ねて、本を読んだ感想を書いてもらってまともにします。単純な絵だからこそ、いろんな自分が投影されるようです。

「一人で転がれる、だから一緒に転がっていきける。そんな出会いをこれからしたい」「『かけら』が自分で動き出したことがえらい。それを気づかせたビッグ・オーはすごい」そんな感想もでてきます。

高校に入学したばかりの生徒たちの中には、学校が楽しくない、中学校の方が楽しかった、なんて思っている生徒もいます。友達ができない、勉強についていけない、部活もどっちでもいいや、なんて思っていたり……。この本で、自分で動き出そうとする「かけら」に出会って、新しい

環境の中でまだ白紙状態で自分から動こうとしない自分を見つめる機会になるようです。

中には、ただの「かけら」の話、つまらない、意味がわからない、という生徒もいます。それでも、自分の頭で考えて、感じたならいいと思っています。

第一回の授業の締めくくりに、「家庭科は、『自分で転がる方法』を学ぶ教科です」と話をします。「しかし、方法がわかっても意識が変わらないと、折角学んだことも活用できません。さて、今日から一歩、自立に向けて、自分で何かしてみよう」と言って、家庭科の本題にはいっていきまます。少しかっこよすぎかなと思っただけですが。

ところで、この『ビッグ・オーとの出会い——続ぼくを探しに』は、題の通り『ぼくを探しに』という絵本の続編です。「ぼくを探しに」は、

丸が一部欠けている「ぼく」が、自分にぴったりはまる「かけら」を探す物語です。

いろんな「かけら」に出会って、自分の欠けた口の部分にはめて試してみられ、なかなかしっくりこない。そして、ついにぴったり「かけら」出会う。嬉しくて歌おうとするけれど、ぴったりの「かけら」を口にはめた「ぼく」は、歌も唄えない。欠けていない丸になったので花咲く道も速く転がりすぎて、楽しくない。せっかく「かけら」に出会えたけれど、ありのままの欠けた自分のままがいいや、歌いながら楽しんでみながら転がっていいこう。そして「ぼく」は「かけら」をそっと置く。「ぼく」は欠けたまま、ゆっくり転がっていいのです。

この絵本は、まさにスローライフをテーマにしている、自分がどう生きていかを考える授業に使えると思います。

絵本『ビッグ・オーとの出会い』の次の授業では、問答形式の「自立度チェック」をします。高校生の自分が、生活面、経済面、精神面、社会面でどれだけ自立できているかを自覚してもらいます。近い将来、自立して自分で生活を創っていくために、そして誰かと共生し、また誰かを支える立場へと成長するために、家庭科の学習内容が生きることに繋がっていることに気づいてもらうのが狙いです。

私自身の高校時代を思い出すと、なんの根拠もなく実績もなく、しかしすっかり大人になった気持ちでいました。いろいろな人に支えられている、助けられて生きていくという視点が欠けていたように思います。

「親や先生にあれこれ言われず自由に暮らしたい！」とか、「一人暮らしをして煩雑な社会生活から逃れたい」とか、「マンネリ生活から抜

家庭総合（1） 自立度チェック _____ 年 組 番 氏名 _____

1. あなたはどれくらい自立しているでしょうか。
 次の1～25の項目について、いつも・だいたい・たまに・しない の4段階にあてはめ、
 ○をつけよう

	いつも	だいたい	たまに	しない
1. 朝起こされないで起きる				
2. 自分のベッドや布団のしまつをする				
3. 自分の部屋は、自分で掃除をする				
4. 自分の衣類は、自分で洗濯する				
5. 自分の使った食器は自分で洗う				
6. 靴や服など脱いだものは自分でかたづけ				
7. 一人の時、食事は自分でつくり片付けもする				
8. 衣類のコーディネートやハンカチなどの用意は自分でする				
9. 自分の着るものは自分で買いに行く				
10. ゴミを分別して捨てている				
11. 家族の食事をつくる				
12. 家族の食事の片づけをする				
13. 自分の部屋以外も掃除する				
14. 家族に「おはよう」「ありがとう」などあいさつをする				
15. 自分の小遣いをななにに使ったかわかっている				
16. 小遣いが不足しても親や祖父母にねだったりしない				
17. 宿題などしなくてははいけないことは、計画的に実行する				
18. 親にいろいろ言われても、カッとならない				
19. 嫌だと思っても、やらなくてははいけないことはする				
20. みんなと同じでなくても、自分の考えを通して行動できる				
合計の○の数 集 計	×3	×2	×1	×0

2. いつも3点 だいたい2点 たまに1点 しない0点 で合計点をだそう。

60

3. チェックをおえて一言感想をどうぞ。

出典：『家庭科ワークブック』（牧野カツ子編著、国土社）をもとに一部加筆修正。

け出して、刺激
 ので才能を生か
 せる生き方があ
 るんじゃないか」
 などと夢想して
 いました（実際
 に才能があるか
 ということは別
 として……）。

高校生の意識
 や自立の度合い
 は、個々によつ
 てさまざまです
 が、「自分で生き
 ていくこと」に
 興味があること
 は、共通してい
 ると思います。

家庭科は、「自分
 の暮らし」を創
 る基礎となる教
 科なのだと思え
 たい。そこで、

「自立」を家庭科の授業の最初に持ってくることにしました。

家庭科教師になった当初は、四月のはじめに、すぐに「家族分野」に入っていました。しかし、いきなり「家族とは…」と、心の内側に入っていくような内容に、抵抗を感じていました。家族の種類や家庭を取り巻く法律の勉強をしても、どうしてこの学習が必要なのか、ということころまで、上手く伝えきれないまま、家族分野が終わっていつていました。

そこで、最初の六時間ほどは、「自立」をテーマに授業することにしました。家庭科のアラカルト料理。スパイスは「自立」。はじめに美味しいところを少しずつ食べて、もっと深く食べたい！と思ってもらうのが狙いです。

各専門分野の中から、それぞれ一つのテーマに絞って取り上げます。

衣生活分野なら「今日の服は自分で洗濯していますか?」、食生活分野なら「自分で選んでバランスよく食べられますか?」、住生活分野なら「(自分の)部屋はキレイですか?」など。

こうしているうちにも、生徒たちの日常生活は続いていくので、生活に家庭科の視点を取り入れるトレーニングのつもりで授業をします。

例えば、家庭科で食生活の分野を取り上げる時期はずっと後だったりするので、それまでも毎日何かを食べている。「視点」があれば、食生活分野を授業で学ぶまでも、食生活が少し改善されるのではないかと期待しています。

それぞれの分野で、問題提起をする。そして、問題に気づき、自分で解決していくために家庭科を学んでいくということを感じ、考えてほしいと思っています。

私は最近、毎日の暮らしの中で、生活の質について考えることが多くなりました。何をつくって何を食べるか、どういうモノにかこまれ、どういう環境で暮らしたいか、限られた自由な時間をどう使うか、限られたお金をどう使うか…。「家庭科の実践」の暮らしです。高校生を前に、「自立」や「共生」を言葉にしてみようと、空々しく気恥ずかしいですが、今、日常生活を営むには欠かせないことだと実感しています。だからこそ、生徒たちが授業を通して自分の暮らしを考えるきっかけを作りたい、そう思っています。

□授業実践□

家庭科 風がかわる 匂いがかわる

覚醒と自立のための
「シエンダー論」

●女子大での教育経験から
最終回……………

なんぼのもんじやいっ

沼崎 一郎

ぬまざき いちろう ●東北大学教員。
専攻は文化人類学、東アジア研究、男性学。
著作に『キャンパス・セクシュアル・ハラ
スメント対応ガイド』（嵯峨野書院）、「な
ぜ男は暴力を逞むのか」（かもがわブッ
レット143、かもがわ出版、2002年）
ほか。

*ご質問・ご批判を歓迎します。
numazaki@sai.tohoku.ac.jp
まで電子メールでお寄せください。

授業の成功度を測るため、最終回の一週前の授業の際、学生たちに授業評価アンケートに答えてもらおうことにしている。形式は、別図に示したようなものだ。ここでは、この連載で取り上げてきた二〇〇三年度の学生たちの反応を紹介しよう。一九九名の受講生のうち、一―三名がアンケートに答えている。無記名のアンケートなので、彼女たちの本音が表れる。

問1の授業の内容に対しては、「とても興味もてた」が六〇%、「少し興味もてた」が三〇%、「どちらとも言えない」が残りの一〇%だった。興味を感じたと答えた学生が九割おり、興味が持てなかったと答えた学生は一人もいなかった。その割には、いつもいつも私語がうるさかったなあ。

問2のビデオ教材については、「とても興味もてた」が三五%、

「少し興味もてた」が五四%だった。やはり九割近くの学生が、それなりに興味をもったと答えている。その割には、教室を暗くすると同時に机に突っ伏し、ビデオ終了までぐっすり寝ている学生の姿も結構目に付いたのだが…。

問3の課題図書とブックレポートについては、意見が分かれる。「少し興味もてた」と「とても興味もてた」を足して四四%、「どちらとも言えない」が二八%、「あまり興味もてなかった」と「まったく興味もてなかった」を足して二七%だった。課題図書は新書やブックレットである。短く、読みやすいものを選んでみる。それでも、「読んで書く」のは好きではない学生が過半数いるのだ。だからこそ、毎年「読ませて書かせる」作業は必ず入れることにしている。学生が嫌がることでも、大事なことはさせなければならぬ。

本も読まずに単位が取れるのでは、大学とは言えないだろう。

問4の配布資料やチェックリストについては、興味もてた学生が七五%以上いたが、興味もてなかった学生が一一%いた。まあ、全員を満足させることは難しいということか。

問5の全体として有益だったかどうかについては、六〇%弱が「とても有益」、三四%が「少し有益」と答えていた。「どちらとも言えない」は五%。「あまり有益ではなかった」が一人いた。

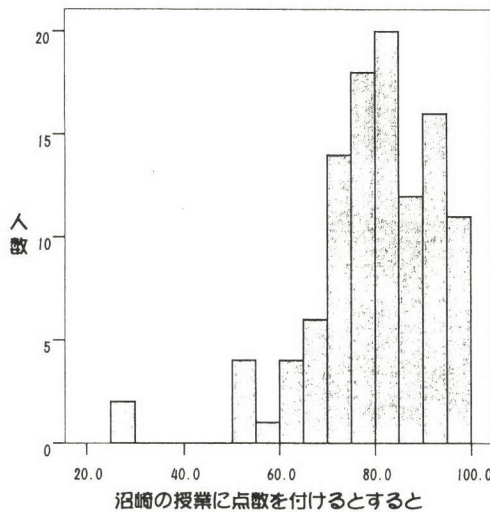
問6の授業の分かりやすさについては、六五%が分かりやすかったほうだと答えているが、分かりにくかったと答えている者も六%ほど存在する。「話が通じない」学生のケアは、大教室のマスプロ授業では不可能だが、なんとかしなければならぬ。

問7の教師の熱心さについては、

八〇%以上の学生が熱心なほうだと答え、四%ほどの学生が不熱心なほうだと答えている。どちらとも言えないは一五%だった。

問8の教師の厳しさについては、厳しいほうだと感じた学生が三割に對して、甘いほうだと感じた学生がその半分ほどだった。過半数の学生は、どちらとも言えないと答えている。レポートの提出方法や期日については厳しくしているが、それ以外には特に厳しくしていることはない。もつと甘い教師がいるというのとは、どういふことなのだろうか。私には分からない。

問9は、遊びの質問である。学生の反応は、「ややイケテル」と「イケ



テル」を足すと三二%。「ややイケテル」和「イケテナイ」を足すと一四%。過半数は「ドローデモイイ」。まあ、「イケテル」という表現自体が死語に近づいているが、さすがに「ヤ

沼崎の「ジェンダー論」やて、そりゃなんぼのもんじゃい？

～授業評価アンケート～

*あくまでも参考のためのアンケートですので、自由に書いてください。

A. 以下の質問に、5段階評価で答えてください（選択肢に○を付けてください）。

- | | |
|--|---|
| <p>1. この授業の内容は、他の授業と比べて、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 まったく興味がもてなかった 2 あまり興味がもてなかった 3 どちらとも言えない 4 少し興味がもてた 5 とても興味がもてた | <p>2. この授業で使ったビデオは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 まったく興味がもてなかった 2 あまり興味がもてなかった 3 どちらとも言えない 4 少し興味がもてた 5 とても興味がもてた |
| <p>3. 課題図書を読んでブックレポートを書くことは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 まったく興味がもてなかった 2 あまり興味がもてなかった 3 どちらとも言えない 4 少し興味がもてた 5 とても興味がもてた | <p>4. 配布した資料やチェックリストは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 まったく興味がもてなかった 2 あまり興味がもてなかった 3 どちらとも言えない 4 少し興味がもてた 5 とても興味がもてた |
| <p>5. 全体として、この授業をとったことは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 まったく時間の無駄だった 2 あまり有益ではなかった 3 どちらとも言えない 4 少し有益だった 5 とても有益だった | <p>6. 沼崎の教え方は、他の教師と比べて、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 とても分かりにくかった 2 やや分かりにくかった 3 どちらとも言えない 4 やや分かりやすかった 5 とても分かりやすかった |
| <p>7. 沼崎の教え方は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 まったく不熱心なほうだと思う 2 やや不熱心なほうだと思う 3 どちらとも言えない 4 やや熱心なほうだと思う 5 とても熱心なほうだと思う | <p>8. 沼崎の教え方は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 とても厳しいほうだと思う 2 やや厳しいほうだと思う 3 どちらとも言えない 4 やや甘いほうだと思う 5 とても甘いほうだと思う |
| <p>9. 沼崎のファッションは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 イケテナイ 2 ややイケテナイ 3 ドーデモイイ 4 ややイケテル 5 イケテル | <p>10. 沼崎の授業に点数を付けるとすると、</p> <p style="text-align: right;">100点満点で、 点</p> |

「イケテル」はまだ使えないので、このままにしている。私としては遊びのつもりなのだが、実はこの間に對する反応が一番「熱心」なのである。ごていねいなことに、わざわざ別の選択肢を自分で作って書き込む学生がいるし、「イケテル」に丸を付けても、「ドナルドのネクタイが」と注釈を書き加える学生もいる。「ややイケテナイ」に丸を付けながら、「イケテナイ」に矢印を付けて「ケータイの位置が」と書き、「イケテル」に矢印を付けて「ネクタイ」と書くというコダワリを見せる学生もいる。

ミッキーマウスの効果が実証されているわけだが、こうした書き込みを見るたびに、苦笑が浮かび、ため息が出る。これくらい熱意で課題図書を読んでくれたら：と違ってしまふのである。

最後に、学生がこの授業に付けた点数だが、最高点は一〇〇点、最低点は二五点、平均点は七八・五点であった。総合評価はBプラスといつたところか。ただし、八〇点以上を付けてくれた学生が五五%いた。過半数の学生は私にAをくれたわけである。その一方で、六〇点未満の落点をくれた学生も七%ほど存在する。

こうした一部の「不満分子」にどう対応すべきか。正直なところ、私にも良案はない。幸い、私の授業は選択科目なので、嫌なら取らないという手もある。だから、私は私なり

にやればいいさと腹をくくっている。でも、できれば全員から合格点をもりたいというのが、正直な気持ちだ。

さて、自由記述の分析に移ろう。

まず、「この授業の一番良かったところ（一番興味を持てたところ）」については、DVや恋愛、避妊と中絶、また特にヒジユラを挙げる学生が多かった。男の心理、男の怖さといったことを上げる学生もいた。さらに、「自分の将来について考えさせられることが多かった」とか、「常識を覆されたところ」とか、「女性には権利があるのだとわかった。もっと女性は今までの社会の性常識を破って強くなれると思った」などと書く学生も少なくなかった。

一方、「この授業の一番悪かったところ（一番興味が持てなかったところ）」については、特にないという答えも多かったが、「男を批判しすぎ」

とか、「恋愛や結婚を否定しすぎ」という答えも多かった。このあたりに、「恋愛の常識」をゆさぶられることへの強い抵抗が読み取れる。本音では、恋愛して結婚すればハッピーになれると思いたい学生が多いのだろう。よろしい、もつともつと批判して、もつともつと否定してやる！それから、「ブックレポート」と書く学生が少なからずいた。もちろん、これはどんなに嫌われてもやめません。

教師の良かった点（統けて欲しい点）と、悪かった点（改めて欲しい点）についての反応は、ほとんど同じである。同じ言動の評価が真つ二つに分かれるのだ。「意見がはっきりしていい」「ストリートな語りが良い」と書く学生もいれば、「言うことが極端」、「決め付けすぎ」と書く学生もいる。「飲み物を飲むところが良い」と書く学生もいれば、「授業にコーヒーはいらない」と書く学生

もいる。

私なりに反省しなければいけない
と思ったのは、「くするなんてバカで
しよう」という言い方だ。それが
「ビシビシ言うところが良い」と感じ
る学生もいるが、嫌だ、不快だ、と
いう学生も少なくなかった。私とし
ては「バカを見ないで済むように」
と言っているつもりが、「おまえはバ
カだ」と言われたと思う学生もいる
わけだ。「女子学生の味方なのか、女
子学生を見下しているのか、時々分
からなくなった」という感想もあつ
た。でも、「毒舌をやめないでくださ
い」という感想もあるしなあ…。

どうしようかと迷うのは、「教室
がうるさいので、私語はもつと注意
してください」といった注文だ。「静
かにしなさい」なんて言うのは嫌い
だし、そう言わなければ静かになら
ないのは教師の語りに魅力がないか
らであり、話術や小道具で私語を鎮

めてこそプロ教師だと思っているの
だが、さすがに一五〇人を超える大
教室だと、話術や小道具の効果には
限界があるということをも最近実感す
るようになった。今年などは特に私
語がひどく、時には「静かにしてく
ださい」と大声を出さずにはいられ
ない。やれやれである。

最後に、授業全体についての自由
な感想のなかから、いくつかおもし
ろいものを紹介しよう。全体的には、
「役に立った」とか、「勉強になった」
といった感想が多いのだが、なか
には、首を傾げたくなるような感想も
ある。

*先生の授業を受けて、影響されて、
彼氏と別れました。結構束縛が激
しかったので、先生の話を聞いて、
あたしも友達たくさん作っちゃって
いいじゃん！って思った。今は一
人で、みんなとワイワイできるか
ら楽しいです。けど、やっぱり好

きになったら自分だけ見て欲しい
って思うのが恋だと思ふ。先生は、
そう思ったことないんですか？

*生殖について軽く考えていたけど
間違いだった。自分を大切にしま
うと思える授業だった。

*男と女の違いが、何だか今までで
上に分からなくなっちゃった。

*役立つ情報がいっぱい、姉妹・
いとこにベラベラと熱心に教えた
くなるような内容だった。

*この授業を受けて、良い意味で男
の本性が少しは理解できたと思ふ。
でも、実際DVをしない男なんて
存在しないと思ふし、DVも愛の
一種だと思ふ。

*高校までのジェンダーに関する授
業では、遠まわしに教えられたけ
ど、この授業では全てハッキリ言
われたので分かりやすかったです。

*沼崎先生は、私たちに結婚または
恋愛をさせたくないんでしょ

か？

*勉強になるとともに、恐ろしくなった授業でした。この授業を受けてから、ニュースを注意して見ていたら、本当にDVの事件が多くて！

*素直に「すごい主張をする」先生(授業) だなと思った。女性の権利をすごく主張してくれて。ジェンダーって女の先生の方のイメージがあるけど、男の先生もいいなと思えた。

*もっとおもしろいネクタイを付けて欲しい。

後日談がある。二〇〇四年度の授業を始めたときのことだ。一人の学生が私のところにやってきて、こう言うのである。

去年、先生のジェンダー論を取っていた友人が、「すっかり人生観が変わった。あんたも取ったほう

がいいよ」と言うので、先生の授業を取ることにしたんです。でもね、その友人、人生観が変わったと言う割には、行動はサッパリ変わってないんですよねえ。

二年間ご愛読ありがとうございました。

・ ・ ・ ・ ・ フ ・ エ ・ ミ ・ ッ ・ ク ・ ス ・ の ・ ほ ・ ん ・ ・ ・ ・ ・

『やさしい英語でフェミニズム 英語で女性問題を語るためのワンポイント・レッスン』

Colors of English編 吉原令子監修 1,260円

女性問題を語るときによく使われる語彙や表現を、わかりやすくまとめた本。

『居場所考—家族のゆくえ』 水田宗子著 1,800円

映画や小説を題材に、女性の、そして男性のさまざまな居場所を探る、珠玉のエッセイ集。

『Working With Women—性暴力被害者支援のためのガイドブック』

フェミニストセラピー研究会編 1,050円

『わがままな女は幸せになれる Let's 自己表現・自己主張トレーニング』

河村ふみ著 1,050円 (価格はすべて税込み)

Femixフェミックス TEL/FAX 03-3424-3603

気まぐれ連載(1)
家庭科食鮮市場

授業の“ネタ”になりそうな
楽しい食材を少しずつお届けします。

かとうあきひと
(現在、教師休業中…)

さい気なく教室の隅っこに

よいみちパン！と

『正しい保健体育』

みうらじゅん著、理論社、2004年

※ ※

中・高生に向けた本で、ここまでぶっちゃけてもいいの？って驚かされた。途中で思わず吹き出しそうになりながら、読み進めていくうちに、うん、これはもうH未経験の中・高校生からエロオヤジまで、対象年齢関係ナシの“つまらない大人にならないためのまじめなバイブル(人生読本)”なんだと気づきました。正直、授業用にプリントするには、僕はちょっと気が引けるところもあったりするのですが、教室の隅っこにさり気なく置いてくのもいいかもしれないう冊です。

今月の**イチオシ**さん

『感じる食育 楽しい食育』

サカイ優佳子・田平恵美著、コモンズ、2004年

※ ※

「あの授業面白かったからお母さんも今度うけてみれば？」これはこの本の中のプログラム(学校への出前授業)を、実際に体験した子どものコメントなんだけど子どもが大人に言っているところがなんとでもいいな〜って思っちゃいました。

この本の著者のお二人自身が、全国各地で大人向け、子ども向けに考案し実践されてきた12の体験プログラムや食に対する思いが満載で、授業にすぐマネできるということ以上になんか感じ入ってしまいました。食育というと子どものしつけやマナーと結びつけられたものだったり、はたまた栄養や理想の食事の押しつけだったりするのが多い中で、先入観にとらわれず匂い、手触り、味などの五感を充分つかってみながら自分の言葉で表現してゆくプログラムは、どれも面白くて魅力的。食の授業は、もうホント、これっきゃない！

課外授業ようこそ先輩 別冊

『着飾る自分・質素な自分』 鷲田清一著、KTC中央出版、2004年

※ ※

生徒たちの興味・関心の高さの順番は、衣→住→食かなあってというのが僕の実感。この本はご本人自身もおしゃれな哲学者・鷲田清一さんのNHKテレビ「課外授業 ようこそ先輩」でのファッションについての授業記録。いくつかのワークやインタビューを交えながら、最後は「自分とは何だろう？」という哲学的ともいえる問いかけにもっていかせてもらうあたり、さすがの一言。「私にとって授業は、問いをぶつける場所だと思っています。そして学生と一緒に悩むんです」という氏の言葉には、ナットク。衣の分野の授業の参考になりそうです。



第十五回

あつ！首が回らない

寝違えたわけでもない、ある日気がついたら、私の首が回らなくなっていた。ずいぶんこき使ったから、ストでも起こしたのだろうと、タカをくくっていたが、一カ月になるうとしている。左後頭部に痛みが走ることに不安がつり、内科と整形外科の診察と検査を受けた。CTでも異常なく、血液検査では白血球の数値が異常に高くなっていた。とりあえず、痛み止めと胃薬をいただいた。

痛み止めは歯医者さんから一錠いただいたことはあったが、毎食後という経験はない。多少の不安はあったが、やや痛みが軽くなったこともあって服用を続けた。しかし、二日前の朝、突然に副作用が表れた。足が変形したかとおもわれるほどに腫れ上がり、私自身の足と思えない。そこで、しばらくご無沙汰している鍼灸師を訪ねた。いま、薬をつかむ思いで東洋医学と西洋医学

の間をゆれ動いている。からだの声を聞くということ、ほんとうはむづかしいことなんだ。とにかく痛み止めを服用することはストップした。

それにしても過密ダイヤが続いている。「食からひろがる福祉コミュニティ」の講演依頼、近くの高齢者大学の講義、男性料理教室など、「ひまわり」の日常にプラスしてのスケジュールを笑顔でこなすという軽業をやっている「私」って何なのだろう。しかし、この職業用の笑顔は、家に帰った時、気おけないスタッフとの「ひまわり」の厨房では、見抜かれてしまう。「入江さん最近、時々疲れた表情になる」。そうなんです。左後頭部の痛みは絶え間なく襲っているのですから。

先日、熊本のフォーラムでお会いしたフリー編集記者の山家さんが、東京からわざわざカメラマン同行で、朝の九時半から四時まで密着取材にこられた。「スーパー・カフェブック」別冊に、地域貢献や社会的意義のある店をとりあげたいという趣旨での来店であった。お帰りになってからのお札状に「スタッフのみなさんの奮闘、そしてなによりお昼を召し上げるみなさんのご様子に『ひまわり』のかけがえのない価値を感じました」とあった。そうなんだ。ボランティアスタッフは「ひまわり」にとってかけがえのない存在なんだと改めて思った。そして、何気なくかわされる会話にも打てば響く反応は、

密度の濃い交流を重ねてこそ得られたものであろう。

本日、久々に、かつて配食担当だったOさんが訪ねてきてくれた。彼が辞めてからの体制はガタガタである。特に、夕食へのニーズは高くなっているにもかかわらず、それへの対応はかならずしも十分とはいえない。現在、四名で当たっており、さらに二名増える見込みになっている。人数が増えると、それだけ利用者とのコミュニケーションが大切になってくる。また、そこには「ひまわり」としての統一した方法が示され、運用されなければいけない。利用者カードの整備と管理、日々の集計責任、利用者のエリアと交通路の図、そしてなによりも一人ひとりの体調、嗜好などの記録が整備されていなければならぬ。「ひまわり」は、治療食の配達ではない。しかし、細やかに利用者のニーズに応えることをモットーとしている。Kさんは肝硬変を患い退院しているが、油ものはさげたいとのことで、「てんぶら」「フライ」が主菜の時は焼き物へ変更し、別メニューとなる。昼、夕食二度の配達では、当然、夕食は別メニューとなる。お弁当が発する前は、お互いに確かめあう呼びかけで騒然となる。これが活気がある瞬間といえるのかもしれない。首の回らない私も、認知症だと言いながら、何度も確かめる側に回る。お弁当の配達が発発すると、みんなほっとする。それから、最後の作業である食器・調理器具・

ふきん・お弁当箱などすべてにわたって煮沸消毒、すべてが終了するのは七時半ということになる。長い長い一日が、あつという間に終わる。

三十数名のボランティアがどのように動いていくかは、「ひまわり」の事業を継続・発展させるキーポイントである。七月にボランティア集会、八月にはNPO「ひまわり会」の総会が予定されている。実務と実践力が期待されるボランティア、後方支援を担う「ひまわり会」の有機的な関係性が築かれてこそ、「ひまわり」の未来が約束されるというもの。私の首もいつまでもストライキをやっていらなくなるだろう。

最近、『We』に連載されている「ひまわりの日々」を、Mさんがコピーして飾り棚に置いておくと、利用者のお年寄りが持ち帰る。食事のあと熱心に読んでいる方など、それなりの反響がある。特にそれとなく察しがつくように書かれている当事者は、読んで自分のことが話題になったことに満足気である。おひとりおひとりの日々の暮らしに、ある刺激を与えたことになるのかも。この二ページの私の拙文から、新たなつながりがうまれることを期待して。

(文・いりえ・かずえ イラスト・かとうゆみこ)

● 「ひまわり」TEL:078733-7784 アクセス:JR朝霧駅下車、バスで3つ目「明舞センター前」下車

黒岩秩子

浅草事件

レッサーパンダの帽子 ―自閉症

くろいわ ちしこ ●新潟県南魚沼市在住。
著書に『続 おお子育』（教育史料出版会）
『未来をほぐす大地から』（径書房）など。
〒949-7302 新潟県南魚沼市浦佐5228
TEL.025-777-2187 FAX.777-3422
E-mail:c-kuroiwa@mqc.biglobe.ne.jp
http://www5f.biglobe.ne.jp/~chizuko/

昨年十一月二十六日、東京地裁に「浅草事件」の判決公判の傍聴に行った。浅草でレッサーパンダの帽子をかぶった若者（当時一九歳）が、一九歳の女子大生を殺した事件。加害者が、北海道の養護学校の卒業生だということはその後報道されたが、それよりも、自閉症者であるということのほうが、もっと大きな事件の要因だということもわかってきた。

一九歳の被害女性の立場になれば、許せないひどい事件であることは間違いないのだが、今回傍聴して、さらに弁護士団の報告集会に参加してみても、彼がこのような事件を起こしてしまったのは、かなりの部分、社会の責任であることを認識した。弁護士団がはじめて彼と会ったとき、彼は「はっ」「はいえ」ぐらいしか喋らず、自分から話しかけることも、目を上げることも、視線を合わせる

こともなかった。だから、彼が小さいときにいじめられて顔を殴られ、前歯が上下ともにもないことを、それまで彼にかかわった誰一人気がつかなかったという。実際、判決が読み上げられる間、彼は一度も顔を上げることなく、固まっていた。

彼の父は知的障害者。母は彼が高校生ときに死亡。その後母代わりになっていた妹は、事件当時は末期のガンで、その後死亡。本人は母の死後、家出をして、ホームレスと微罪での刑務所生活を往き来していたという。

警察は、彼と面談して調査を取る。「わいせつ目的で女性に近づき、抵抗したので刺し殺した」「自分のものにしたかった」などと綴られている。弁護士団は、彼がそんな言葉で口にするわけがない、と思い、法廷で四〇時間に及ぶ被告人尋問を行った。タクシー運転手の目撃証言も調

書に反しているが、判決は、警察の調書をそっくり認めた検事側の主張そのものだった。責任能力はある、だから無期懲役。

弁護団は言う。「三年もかけて、たくさん証人を呼び、被告本人にも無理をいってかなりきつい尋問をし、真相究明をしてきたつもりだったのに、裁判所は警察による『虚偽調書』しか使わなかった。不誠実極まりない判決」。

生まれたときから、回りに受け入れ態勢があつたなら、こんな事件にはならなかつたはず。彼は、言葉によつて人に自分の思いを伝える習慣がなく、おもちゃのピストルとか包丁等が、唯一の意志伝達手段になつていた。弁護団の熱意が六カ月目ぐらいから伝わりはじめ、ようやく会話が成立するようになってわかつたことは、彼が望んだのは「女性と並んで歩く」「女性と並んでベンチに

座る」というようなことだったそうだ。衝撃的な事件であり、衝撃的な判決だった。

北海道文化放送の記者が、「この事件は防げたはず」と考えて作つた番組を、六月末、真夜中に五五分間フジテレビが放映した。番組は、栃木県の黒羽刑務所（山本譲司著『獄窓記』参照）から出て来たSさん（二七歳・男性）の出所直後から始まつた。軽度の知的障害のあるSさんが、持ち金五〇〇〇円で、刑務所で言われたとおり、鉄道を使って水戸の保護観察所まで行つたが、戻つてきて、以前ホームレスとして暮らしていた、栃木県内の公園のベンチに「居」を構える。市役所の福祉課を尋ねると、住所がないと生活保護は出せないといわれ、戻つてきてビールと酒を飲む。文化放送の記者に励まされて、もう一度市役所に行く、アル中だということ、隣町に

ある民間の更生施設を紹介され、市役所の人とそこへ行く。酒をやめたという彼の意思から、やっと生活の場を得られたのだった。

番組では黒羽刑務所の中の状況も見せてくれたが、多くの受刑者は、そこにいるのが一番暮らし心地がよく、出所するときにはうれしきどころか不安だけと言つていた。なんと全国の受刑者の二二%が障害者（知的、身体、精神、その他をあわせて）だという。その人たちが出所しても、刑務所ではただここへ行つて相談しなさいと教えるだけで、そこに引き着けるかフォローする人はいない。まさに放り出されるのだから、大変なことだ。

しかし、障害があつても見た目ではわからずに、何の受け皿もなかった人たちが、地域に受け入れられ、支えられながら生きていける日は、いつくるのだろうか？

わがまま映評 25 『ラヴェンダーの咲く庭で』 満田康子

今、中高年女性に圧倒的な人気のあるこの映画。大ヒットの原因は何だろう。静かに暮らしている老姉妹のところに言葉の通じない記憶喪失の若い男が突然にあらわれるという設定は、確かにロマンティック。折からの純愛ブーム。「エリザベス女王も号泣」というキャッチコピーも秀逸である。

ストーリーはいたって簡単。時代は第二次大戦前夜。イギリスの海辺に穏やかな日々を送っている二人の老いた姉妹。嵐の翌日、岩に打ち上げられていた瀕死の若者を姉妹は救う。片言のドイツ語で彼はポーランド人であることがわかる。

姉の夫は出征、前線で死亡。妹は青い海原を王子様が渡ってくるのを期待しているうちに年を重ねてしまった(らしい)。姉妹の生活を支えているのがこれまた若くはない家政婦。闖入してきた青年と三人はそれぞれのやり方でコミュニケーションしようとする。姉は久々にドイツ語の辞書を取り出し、妹は英語の単語を紙に書いて教えようとする。家政婦はジャガイモの皮むきをしながら。

偶然、青年はヴァイオリンが上手であることがわかる。彼の弾く音楽を窓の外で聞いていた若い女

性画家が、彼の才能を見抜く。彼女は、自分の兄である著名な音楽家に彼のヴァイオリンを聞かせるために、彼を強引にロンドンに連れ出す。

置き去りにされた姉妹は、彼の突然の離反に嘆き怒るが、結局は元通りの日常が戻る。何年か後、若者は、ヴァイオリニストとして華やかにデビューする。輝かしい栄光につつまれた青年を祝った後で、二人は彼女たちの生活に戻る。

姉妹、とくに妹の青年に寄せる思いは、明らかに異性に対するものではあるが、いたって奥ゆかしい。七〇代の女性と二〇代の男性では、愛あれば年の差なんてというわけには行かないし、時代は一九三〇年代のこと。寝入っている青年の髪の毛にふれようとしたら、散髪した青年の金髪を隠し持つという以上の行動には出られない。

流れ着いた青年がポーランド出身であること、彼が片言のドイツ語をしゃべるため、村の人からスパイの嫌疑をかけられたりすること、開戦を伝えるラジオ放送などで、かすかに社会の動きは分かるが、まだ姉妹の生活をおおう暗雲となるには至っていない。そんなあやうい平和の日々におとずれた、ときめきの一瞬である。姉妹を演じるマギー・スミスとジュディ・デンチの、微妙な心の動きを示す表情は実に豊かだ。七〇歳を超えているのに岩場を駆け下りる二人の足のかろやかさ。この二人があればこそその企画であるという監督の言に、納得がいく。

青年が最後に弾くヴァイオリンのすばらしさ。これだけでこの映画を見た甲斐がある。音楽が年齢性別、国境を越えて人の心をつかむとはこういうことだろう。エリザベス女王のように号泣はしなかったが、このヴァイオリンの旋律には涙が出た。

「八月の鯨」（一九八七年）という優れた映画があった。やはり海辺で暮らす老いた姉妹の話である。残照の老いをポジティブに描いている点で良く似ているが、「ラヴェンダー」のほうが全体的に上品といったらいだろうか。アメリカ映画とイギリス映画の違いかもしれない。

（チャールズ・ダンス監督／イギリス／二〇〇四年）

中畝常雄・治子

ハレの舞台に備えてヘヤークット



(イラスト・中畝治子)

なかつね・つねお／はな●横浜市在住。

日本画家。祥太、友雄、千明の三人の子育てと仕事に追われる日々の雑感を「ひげのおばさん子育て日記」(二〇〇〇年四月〜〇三年十一月号)としてWeeに連載。祥太は〇二年四月に一七歳で亡くなる

(追悼文集「祥太といた時間」千円。関心のある方はお問合せ下さい)。

ホームページ: <http://www.nakaune.com/index.html>

メール: tsuneharu@nakaune.com

誰にでも「ハレ」の場を

作品がなかなかできあがらず、「いつになったら展覧会ができるのだろう!」と嘆いている知り合いがいる。結婚、子育て、と空白を経て再開した創作活動が思うように進まず、愚痴を言ってきた。返事は簡単だ。「まず、展覧会の会場を決めてしまうことです」とメールを返す。展覧会をするとか、絵を依頼されるとかの目標が先になければ、作品は一点も完成しないだろう。

展覧会は私たちにとって「ハレ」の場だ。アトリエにこもってコツコツ仕上げた作品を展示し、来客に誉めていただく場だ。「色がきれいですね」「描写が細かいですね」「絵の中に引き込まれそうです」など、客がそれぞれ感想を言ってくれる。誉めてもらえるのはとても嬉しい。たとえお世辞でも、こちらは素直に喜ぶ。

展覧会に集まってくれる人は、すべて私のために来てくれるのだ。話題は、私の絵と私のことしかない。皆の注目を浴び、そこで私はスターになっている。その状況が私に自信を与える。またやりたい、次はもっと良い絵を描こうと意欲も湧いてくる。

はじめて展覧会をした友人が、「中畝さんたち、毎回こんな経験をしていたんですね! 早く教えてくださいよ! 楽しいですね!」と興奮していた。そうなのだ。

「同じ阿呆なら踊らにゃそんな」と言うではないか。ステージに上がって、注目を浴びて踊る方がずっと興奮するし、楽しいのだ。だから、こんな経験は、誰にでも必要ではないかと思う。

「べてるの家」の紹介ビデオ『ベリー・オーディナリー・ピープル』に、さをり織りを身にまとい、ファッシュヨンショーをする場面がある。スポットライトを浴び、観客注視の中、花道を歩くと、人は変わっている。「いつものあの人ではなくなる」のは、障害や年齢に関係ない。スキップしたり、ポーズを決めたりするが、それは他人にもご当人にも思いがけないことだったりする。この興奮が快感となり、「またやりたい」「今度はいつ？」となってしまう。それも、頑張ったからとか、良くできたからとか、その人が特別だったからの「褒美ではない。その人の存在だけにスポットをあてている。そこがいい。その点では、祥太もいつもスポットライトを浴びていた。家族や取り巻く人たちが皆に声をかけられ、優先され、大事にされた。少数でも、いつも注目してくれる人がいた。生きていく、ここにいるという存在だけでよかったのだ。

さて我が家の残りの子どもたちに、「ハレ」の場はあるのだろうか？ 学校の中では、特別な能力がなければ「ハレ」の場はない。自分のことを思い出しても、少人

数の中学から高校に入ったとたん、その他大勢の中に埋没してしまった。そこでは、どの子にもスポットが当たる場面など、とても考えられない。その後「ハレ」の場を持たたのは、自分で個展を始めた三〇歳過ぎだ。今では、それ以外にも「ハレ」の場をいくつか持っている。『We』4月号に書いたアフリカの太鼓ジンのバンドもその一つだ。お陰さまで夏には出演依頼がたくさんあり、練習、本番と、メンバー全員忙しくしている。

「ハレ」の場は待っていてもなかなかやってこない。だから自分で作ってしまおう。その時、人より秀でた能力は要らないが、仲間や経験が必要だ。企画を考え、実現させて楽しもうという仲間がいると、ずっと面白い。そして、これまでの人と人をつなぐ経験が役立っていると思う。それって「年の功」というやつかな？

それにしても、私の青春時代。「ハレ」の場なんて全然なかったなあ……。(常雄)

※ ※ ※

妻のイイフン……英雄がたまに行くカラオケも、千明がハマっているプリクラも、言わば「ハレ」の場疑似体験といったところででしょうか。あなたたちもお父さんと同様しつかり下積み？ 生活を重ねてから、ホンモノの「ハレ」の場を迎えることですね！ エッ私？「ハレっばなしー！」(治子)

三浦純子



げんちゃんダイエット Part2 バランス

みづら じゅんこ ●神奈川県横浜市在住。
30歳で出産せねばならぬと信じて、産後専
業主婦となるが、自分が思い描いていた子
育てとのギャップにおののいている時『ジ
ェンダーフリー』と出会い、人生が大きく
Expand)に変わる……。現在は会社員。

夫のげんちゃんは、数年前にダイ
エットをして、九〇キロ台の体重を
七〇キロ台に落とすし、その後も、運
動や食事に気をつけながら、七五キ
ロ辺りをキープしていた。ところが、
この度「ダイエットの仕切り直し
や！」と言って、新たにダイエット
を始めた。ダイエット「Part2」当時、
イライラしていたのを思い出し、私
と娘は「触らぬ神に祟りなしだよね
え」と小声で言い合った。

ダイエットPart2では、まず計量
器を買って来て、すべての素材を量
ってから料理を始める。ご飯は一五
〇グラム。食べた後は栄養素を計算
して、たんぱく質など一日に必要な
栄養素が摂取されているかを確認し
て記録に残す。足りないときはでき
るだけ次の食事で補う。

私と娘は「そこまで細かく量って
料理することないじゃん。ばっかみ
たい。はっはっはっ」と笑った。す
ると「これを笑う人はダイエットに

は成功しないよ。目測ほど当てにな
らないものはないからね。それに、
ご飯を少なめにしたからと言って、
デザート食べてるようじゃダメ」と。

知らなかったのだが、ジムに通っ
ているマツチヨマンは、肉体改造と
健康維持のために、栄養バランスを
考えて自分で料理をしている人がほ
とんどだそう。計量器を笑う人な
どいないらしい。私は、マツチヨマ
ン「男らしさ（家事は女の仕事と考
える）」というイメージだったので、
自分で料理をするとは偉い、と、ち
よつと見直した。

その後、夫は見る見るやせて行っ
た。しかし、イライラした雰囲気は
ない。遠目で見ていた私や娘にも
「一緒にウォーキングに行こう！」
と笑顔で誘ってくれる。

ダイエットのオコボレはそれだけ
ではない。夫はダイエットの進行と
ともに、家事をママにこなすようにな
った。そして温厚になった。まっ

たくといつていいほど怒鳴り声を出さない。(以前はプチDVだったのに!)私は疑問に思い、聞いてみた。「どうして、ダイエツト中でイライラしているはずなのに、そんなに温厚で、家事も以前よりマメにこなすようになったのでしょうか?」。すると、「人間が食べ物によって、これほど変わるとは知らなかった!体に良く、バランスのとれた食事をとることで、本当にイライラしなくなつた!」という。

以前も書いたことだが、家庭科を習っていない夫は、ダイエツトをするまで食生活や栄養素といったものについての知識がまったくなかった。一つひとつの食べ物に含まれる栄養素の一つひとつに感動し、それらの働きがもたらす効用を自分自身のからだで感じ、それがストレートに肉体に結果として出ること、いたく感動していた。また、満足もしているのである。

それだけではない。温厚になったことで、回りの人たちからも優しくされるようになり、友達も増え、なんだかとても楽しそうである。その分、私と娘がうだうだした生活を送っているように見える。

不思議なもので、一人だけが家事をして二人が傍観者だと、残る二人は手伝わなければならないのだが、家事をする人が二人になると、娘は一人で傍観者をしているのがおかしいと感じたようで、急に家事をするようになった。私が皿洗いをしているら、誰かが洗濯をしたり、布団を敷いたりしてくれる。本当に素晴らしい!そんな生活に慣れてきたせいか、今まで一番家事をしていた私が、手を抜くようになってきた。もちろん無意識なのだが。

ある日会社で残業をしていると、家から電話があった。「何時に帰ってくる?」「そろそろ帰る」と言っていて電話を切つたのだが、この仕事を

片付けてからと思っているうちに、結構な時間が経過していた。家に帰ると、食事、洗い物を終え、布団を敷いてのんびりとしている二人の姿があった。そして振り向きざま、私を睨みつけて「食事を作って待っている人の気持ちにもなれ!」と言われた。

いけない、いけない。これでは、ワーカホリックのサラリーマンと同じだ。やっぱり私のジェンダーフリーイフも、げんちゃんの肉體改造ダイエツトと同じように、何年か一度は「仕切り直し」が必要なのかもしれない。バランスの取れた食事が人間にとって大切なように、余裕を持って、バランスの取れた生活をするところから、ジェンダーフリーイフの新しいアイディアも浮かんでくるかもしれない。

さて、げんちゃんのダイエツトに對抗する私の「仕切り直し」はいかに?

リレーエッセイ「地方からの発信」
第5回 ● 山形から

「県内すべての市町村に
女性議員を！」

県民企画講座を 立ち上げて



菅野節子

かんの・ときこ ● 山形県在住

「未来の山形を考える会」事務局長、山形県退職女性教職員会の会長、山形市女性団体連絡協議会会長、山形県男女共同参画センター・チエリア企画運営委員

E-mail:kanno@topaz.ocn.ne.jp

九五年、山形市初の女性県議候補として選挙に出た私は、新人として破格の戦いをしたといわれましたが、初の女性県議は実現しませんでした。その反省に立って、次期九九年に向けて女性が力をつける必要性と、党と組織に頼った選挙で勝つことの難しさを痛感しました。

辛酸をなめた悔しさをバネに「動かなければ何も変わらない!」と、地べたから這い上がる思いであちこち学習の機会をつくり、動き回りました。有志で「女性と政治バックアップスクール」を開催し、国立女性教育会館、北京JACへの参加など、学ぶ機会は広がり、目からうろこ状態に。なかでも刺激されたのは、フイリピンでの「女性と政治家のためのグローバルネットワーク会議」に参加した一五人が、帰国後、一人一万円ずつ出し合った「シーズマネー(種となるお金)」をもとに、岡山・大

阪・東京に事務所を作り、各都道府県に責任者を開拓し、「女性ネット」づくりの輪を広げていったという情報でした。九九年の女性の躍進、二〇〇三年の女性の政治参加の波を決定的なものにしたと言われる「女性と政治キャンペーン」の動きはここにつながっています。

しかし山形県では、九九年に女性県議がゼロとなり、新たなゼロ三県(広島・福井・山形)の一つになりました。私は再度県議挑戦は果たせませんでした。私は再度県議挑戦は果たせませんでした。山形市議に女性をトップ当選させることができました。そして〇三年四月、三〇歳の女性を県議として当選させ、大いに沸きました。が、それでも山形県の女性議員数は全国最下位、県内四四市町村のうち半分の二二が、女性議員ゼロ議会です。この事態をなんとかしなければと考えてきたものの、なかなか具体的に動くことができませんでした。

○一年四月、積年の女性団体の要望が実り、県男女共同参画センター「チエリア」が発足。二〇〇三年より、男女共同参画に関する学習に取り組む団体を県が支援する「県民企画講座」がスタートしました。

これを機に、私たちは「未来の山形を考える会」を発足させ、「県内すべての市町村に女性議員を！」をテーマに、県民企画講座を実施しました。二次次（〇四年）の最も大きな企画は「全国フェミニスト議員連盟」との共催イベント「夏合宿 in 山形」でした。スタート時五人だった実行委員は一五人になっていましたが、県の企画講座に再び応募し、「なくそう女性ゼロ議会！」の一連の講座続行が決定。『変わるう 変えよう 女と男』がテーマの講演とパネルトーク。猛暑の中、一〇〇名を越す参加者（県外四七・県内五三名）、男性の参加、遠方から車椅子での参加もあり、

元氣の出る会になりました。その後、県内三カ所で講座を持ち、参加者は三〇名・四〇名と、一年次より多くのリピーターができました。

三年次（〇五年）を迎え、今年も県内五カ所で講座を実施中です。今年目標は、若い人呼びかけて会に入ってもらうことです。昨年秋季の補欠選挙で二名の女性町議が誕生したのも大きな喜びで、その方たちにも一緒に活躍してもらうこと。嬉しいことは、「私にもできるかも」「次は考えてみたい」という人が何人か出てきたこと、小さな村や町の男性首長から「今度うち方さ来てけれ」と講座の開催を依頼されるようになったことです。単純といえば単純、でも語り合うだけでなく体を動かしたり歌ったりして、子育ても労働も環境問題も話題にしながら仲間を増やしていきたいと思っています。

人を集めるのは大変です。まして

や「女性と政治」をふりかざしては、保守的な山形では少しジェンダーをかじった人でも、「いいはあ、パスだあ」と逃げられます。「勉強はするが行動しない山形の女性」といわれる所以です。私たちの会で気をつけている人集めのコツをいくつかご紹介します。①内部で敵を作らない②それぞれを持ち場を果たす③堅苦しい会だと思われないように配慮する④女性議員にパネリストを依頼するときには、議員が特別な人でないと思えるように身近な話題や悩みを共有できるようにする⑤元氣に活動している女性や議員を見て自分も仲間に入りたい、議員も可能だとの期待感を持つようにする⑥若い人を会の代表にして、実務はベテランがしっかりやる⑦義務と義理だけでは人は動かないので、来て楽しく何かを得ることができるように、十分な配慮と気配りをする、など。

西川 正

円卓テーブル と花火

にしかわ ただし ●埼玉県上尾市在住
この春、市民活動「まちづくりをテーマと
するシンクタンク『ハンスオン埼玉』を設
立し代表」といつつ現在は高虎の日々……
メール：nekokan@sainet.or.jp
ブログ：http://blog.livedoor.jp/yun0422/

娘の通う公立保育所の夏祭りの様子がこの一〇年で大きく変わった。ほんの数年前までは、保護者が分担して焼きそばやジュース、金魚などのお店をやっていたのだが、〇―157だ殺傷事件だと騒いでいるうちに、食べ物や花火など少しでも「危険」がともなうものは、全部なくなってしまう。先生たちも工夫してくれているのだが、昔を知る少し元気な親たちにはものたりない。そこで、花火や食べ物やろうと保育所や市役所に働きかけるが、「何かあったときに責任がとれません」と所長や市役所に「責任」を持ち出されてしまうと、どうしていいのかわからなくなる。

花火にしても、例えば近所に煙がいやだという人がいれば、本数を減らすなり、親が丁寧挨拶回りをするなりすればいいし、「手持ち花火」が危なければ、「ナイアガラ」だけで

もいはずだ。労力が足りなければ、自分の子どもの写真をとるぐらいしかやることなくてうろろうろしているお父さんなんか手伝ってもらえば、喜んでやってくれるはずだ。しかし、「私たちも協力するから、花火をやりませんか」と申し出でも、「お願いだからそこまで言わないで、私たちががんばりますから」と断られてしまった。そういう対応になってしまふ背景に、夏祭りも、保育所が「責任をもって」サーブिसとして保護者に提供するものだという認識があるようだ。

先日、公園で遊んでいたら、小さな子が私の娘に砂をかけてしまった。まあそんなこともあるだろうと笑っていたら、砂をかけた子のお母さんに「すみません、すみません！」と大げさにあやまられて、とても驚いた。これは裏をかえせば、自分の娘

がそうしてしまつたら、同じことをしなくてはいけないということになる。そう思うと、この時代の子育てのしんどさを思つて、なんだかなあーと暗くなつた。

サービス&契約全盛の時代、どちらかのせい（責任）だ、と問わなければいけない関係が、社会の中に急速に広がっている。逆に、何かを話し合つて決め、自分たちで解決しようという文化は窒息寸前ともいえる。

大人たちが「自分ではない誰かのせい」にしていくうちに子どもたちの世界はどんどんやせ細っていく。公園はその象徴的な存在だ。「○○してはいけません」という文言が看板に書かれている。市民は役所の責任を問い、役所は自分の身を守るためにいろいろ禁止する。結果的には、何も起こしてはいけない場所が公園のイメージになつてしまつた。

一方、近年、急速に全国に広がり

つつある市民活動に「冒険遊び場（プレーパーク）」がある。土、火、水、風、そして食べ物や廃材、ロープなど「普通、公園にあつてはいけないもの」が備えられている。各地のプレーパークを訪ねると、子どもたちの実にいきいきとした笑顔と、どろどろの服や手足を見ることができ

る。ここに看板があり、「自分の責任で自由に遊ぶ」と書かれている。この場合の責任は、直接的には、ケガを含めてそこで起こつた出来事を、他の誰かのせいにはしないということだが、もうひとつの意味合いがあると

思う。それは、子どもたちが自由に遊ぶことを大人の責任で保障してほしい、というよびかけだ。プレーパークは、子どもたちが自分で決めて、自分でやってみる自由を獲得しようとする試みだ。そのために、誰かのせいにするをやめ、

かわりに、共同で責任をとるということを広く市民に呼びかけ、話し合ひ、実践する運営者たち（市民）がいる。自分の責任で、かつみんなの責任で場をつくるのが（自由）につながることを、プレーパークの子どもたちは教えてくれる。

そういえば、夏祭りも、昔は保護者と先生が実行委員会をつくつて行われてきた。いろんなコトやモノをつくつてきたのが、保育所の文化だったともいえる。実は、消えたのは花火ではなく、立場が違つても、人と人が対等に話し合つて決めるという「円卓テーブル」だったのかもしれない。

世は官民あげての、「子育て支援」話し合つて決め、ともにつくる、という経験を、多くの市民、とくに親たちが持てるようにするにはどうしたらいいだろうか。

『ジェンダーとジャーナリズムのはざままで』

諸橋泰樹・著
批評社・発行
一八〇〇円＋税 二〇〇五年四月刊

諸橋 泰樹

(フェリス女学院大学教員)

1. 社会の三八度線はなぜ存在するか

一九六八年、関西の学生フォーク・バンド、ザ・フォーク・クルセダーズの大ヒット曲「帰ってきたヨッパライ」の次にリリースされるはずだった「イムジン河」の発売中止が意味するものについては、当時小学校の五、六年生の子どもに理解できる由もない。

けれども、半ば親の強制によるエリート中学校受験よりも、このイム

ジン河事件の背景や、フォークソングを通じて社会にメッセージを伝えること、また東大安田講堂の攻防戦のテレビ中継の方が、三多摩の田舎に住む多少早熟な小学生にとっては重みがあり、関心があった。いや、都下の地元公立中学ではない、都会の学校に合格すれば、こういった問題にもっと大手を振ってコミットできるのではないか、という思いもあった。

「三八度線」がもたらす人間の心の壁と暴力。差別と収奪とイデオロギーと権力。六八年から六九年にかけて、その意味されるところの不安や不快さについて、漠とではあるが感じていたと思う。何よりも金嬉老事件、水俣病裁判、新宿タンク車闘争、フォークゲリラ、ベトナム反戦運動、七〇年安保反対と沖縄基地闘争など、異議申し立てのラッダイト運動が、半分は学生と権力双方に対する暴力的な恐怖を感じさせ、しか

し半分は社会変革への興味と希望を抱かせる、少年期の自我形成に大きな影響を与えた同時代的経験だったのである。

2. 二一世紀前半のジェンダーとジャーナリズム

この四月末、時事的な評論集の三冊目、単著としては六冊目にあたる著書『ジェンダーとジャーナリズムのはざままで』を出した。小学校高学年で政治・思想・文化状況を同時代体験し、そのことについてもの言ったり文章で表現したいと願ってから三五年近く、「遅れてきた青年」として当時充分にコミットできなかった分を取り戻すかのような日々の生活の中、幸いにして文章発表や発言の場もあり、市民運動にかかわる時間も多少のお金もあって、どうやら所期の目的を達しつつある。

二〇〇一年頃から二〇〇四年までの既発表文を編んだ本書は、昨今の

重要テーマである「ジェンダーとメディア」は、パッシングが続く「ジェンダー」、そして小泉政権発足後のジャーナリズムと9・11以降の米国のユニラテラリズム（一国主義）や日本のナシヨナリズム化、文化状況を批判した「メディア時評」の三部からなっている。それぞれに、カルチュラルスタディーズ、社会構築主義、ポストコロニアリズムが、視座と方法論として対応するかたちとなった。

その中に、三〇年の時を超えて復活したイムジン河のことを書いた文章も収めた。かつてサブカルチャーは、抵抗、たり得たが、データベース消費の現在、抵抗の快楽はコンピュータに折り込み済みだ。閉塞した文化・社会・政治状況が、重苦しい。

3. すでに多様な「戦争」状態の中にいる我われ

二〇〇〇年刊の自著『季節の変わ

り目』（批評社）の「あとがき」で、次のように述べた。

《きたるべき「新世紀」は、多様性と相対化がさらに重視されるようになるだろうが、一方ではそれらに対する人びとの苛立ちが昂じ、局地的には年代別や性別、地域や宗教、エスニシティをめぐる闘争が相次ぐと予想される。子ども対おとなの闘争、女対男の闘争（ジェンダー間闘争）は、現に起き始めてもいる。高齢者対若年層のそれも早晚可視化されてくるに違いない。「対立の構造」が再びあらわになるであろう「新世紀」を目前にして、世紀末に数かずの悪法を通してしまい侵略体験と戦争体験を意識の中から風化させた我われ日本人の民主主義のあり方が、国の内外から厳しく問われている》。

ジェンダーへのバックラッシュ、DVの顕在化、親の子殺し・子ども

パッシング、「野蛮」なイスラム圏に對する「文明」を僭称する側からの戦争、歴史修正主義の台頭と教科書、心のノートによる管理、NHK戦時性暴力番組の改竄と批判、小泉政権への高支持率、憲法見直し論議と自衛隊の海外派遣、そしてアジアでの反日感情等々。本書に収めた文章群を書いていた時期は、あの、予言的あとがきをなぞる時期だったと思う。

4. 「対立の構造」を超える途を生きる

これからの一〇年は、憲法九条や二四条などの改悪をはじめ、日米が世界の中で沈下する正念場に我われは居合わせることになるだろうが、それは、差別や抑圧、戦争に対しての「抵抗」と、多様な人たちとの「共生」のための実践プロセスにはかならない。

辛い一〇年だろうが、「元氣」はまだあるつもりだ。

『〈男〉の未来に 希望はあるか』

細谷 実著

はるか書房・発行 星雲社・発売

定価一七〇〇円十税

二〇〇五年三月刊

金井淑子・細谷 実

(横浜国立大学教授) (関東学院大学教授)

「プロ・フェミニニスト」(と本人が自称しているわけではないが)として日本の女性学・フェミニニズムの場面に深くかかわってきた著者の「メンズ・リブ」エッセイ集である。対象はNHK「プロジェクトX」に描かれる男のロマンにシンプシーを寄せる団塊世代の男たち、女たちだ。さらに、著者と同

世代の四〇代や、著者が日々向き合う若い学生世代にも向けられている。どこまでも普通の市民の視線に立ち、彼らの感覚に即して、そこから「男性問題」を語ろうとする。

本書に一貫するこのスタンスは、現下のジェンダー・バッシングや男女共同参画バックラッシュ状況を、草の根保守的に支えているであろう普通のおじさんたちへのメッセージだ。この間フェミニニズムが、ジェンダーという切り口から発してきたセクシユアリティや性役割をめぐる規範と逸脱、あるいはセックス幻想などの問題について、男にメッセージを届ける必要がある、そうでなければ男の未来に希望は語れない、という著者の強い思いを背景とするものだ。

男性が抱えている「困った問題」「男の生きがたさ」が語られる。過

労死、過労自殺、杜畜的人生、中年自殺、家庭内での疎外、地域での疎外、いじめ・少年自殺、酒浸りの依存症、徴兵、戦死、等々である。対する女性問題には、痴漢被害、盗撮被害、強姦被害、DV、従軍慰安婦、その他の戦時性暴力被害、就職差別、職場での待遇差別、「ブス」差別、セクハラ、主婦鬱症、etc. がある。この二つの問題群は「非対称性」の關係にあり、男性問題は男性が生み出す問題、女性問題もまた男性が生み出す問題、いずれも男が「加害の性」とされてしまう。この問題を、どうやったら男性自身に届く言葉で、男性としての自ら自身の生きがたさの認識につなぐことができるか。

男が背負わされている男らしさ、男性イメージの男性自身にとつての縛りについて、全二四章のエッ

セイで取り上げられるトビックスは多彩だ。痴漢冤罪にみる男たちの不安、父性の復権論、男と暴力、男らしさ／女らしさの行方、男子校の出身者の未来、といったテーマについて、倫理学研究・思想家

研究者としての著者の知的関心と造詣を背景とする問題の読みほぐしは、決して一方的に著者の見解を押し付けるのではなく、「僕はこう思う、けど、あなたは？」と問いかける。著者の真摯な問題への向き合い方にもかかわらず、この語りのスタイルが、エッセイゆえの理論的な掘り下げの食いたらなさも含めて、フェミニズムから起こる反発も予想される。おそらく著者には、それも想定内のことであらう。(金井淑子)

●著者本人の弁

例えば、痴漢冤罪問題である。も

しも冤罪が起きたら、それは、一人の男性の人生にとって相当な打撃となる。だから、痴漢被害に比べて数は圧倒的に少ないかもしれないが、よく考えるべき問題と思う。

多くの女たちがそう考えないのなら、男たちは被害者意識を募らせて、転じて攻撃的姿勢をとるのである。もしもそうなることの責任がすべて男にあるのなら、男たちと断固として戦う、という対応もありだろう。しかし、冤罪被害者の被害意識自体は正當なものである。冤罪の可能性はきちんと考慮され、冤罪被害を生まないような配慮がなされるのが正義だと思う。そこでの正義を求めることによって、多くの男たちが攻撃に転じるのを未然に防ぐ必要があると思う。

また、セクハラやDVをするような男たちを批判し、「女子供」を守り、勇気と公共心を持って男らしく生きようと思っている、多くの「普

通の」男たちの心情がある。

「男らしく生きたい」という願望において、少なくとも字面においては、彼らと共同参画叩きをしている保守的な男たちは共通している。その「男らしく生きたい」という願望を否定する権利は誰にもないはずだ。そこで男らしさの内容が、他者に危害的なものでない限り。

ところが、彼らは、「フェミニストや共同参画が自分のそうした願いを否定しようとしている」と感じているらしい。どうしたことなのか？ 人々の間には、多くの加害―被害の関係が実際に存在している。それらがいかなるものなのかを、きちんと把握し秤量すべきである。しかし、男の側にも女の側にもある過剰な被害者意識が、そうした当たり前の対応を妨げている。そこを解きほぐしたい、と思った。(細谷実)

木村 栄

がん騒動

老人健診の数日後、診療所に呼び出されて言われた。右肺の上部に影がある。悪性腫瘍の疑いがあるから精密検査を受けるように、と。

で、別の病院でCT検査を受けた。結果は「悪性ではないが、悪性でないといい切ることはできない。数ヶ月後に再検査を」だった。

それより、と医師が言う。肝臓にある直径三センチの腫瘍が心配だから、造影剤を使ったCTを撮るように、と。

私には、がんにならないという妙な自信がある。がんより造影剤の副

作用の方がこわい。肝臓の塊は去年も指摘されたのだが、風邪薬で、蕁麻疹、高熱、血圧急降下と三点揃ったアナフィラキシーショックに見舞われたことがあって、同じ副作用のある造影剤をパスしたのだ。だが塊が成長したとあればいたしかたない。観念して検査を受けた。

結果を待っていたある日の未明。

突然、パニックに襲われた。

「がんだって？ 一年も放置したのだから手遅れかも。死ぬ？ あの悪名高い抗がん剤治療を受ける？ 死の恐怖と闘いながら？」

うろろうろと家の中を歩きながら、考えた。もしそうなら、今のふやけた私では闘えない。恐怖と対峙する「私」を維持してゆく自信がない。武器とはいわれないが、せめてしんばり棒がほしい。

孫、友だち、旅行、グルメ、自然。だめだめ。そんな優しいものでは闘

えない。体をアドレナリンが駆け巡るような何か。毒を制する毒。

仕事だ！ ストレス性の病気持ちになつてから、苦しいばかりで自己満足でしかないアマチュア的物書きなぞやめて、美しいものを観、楽しいことをして穏やかに老いてゆこうと思つてきた。

ところが、「死」が目の前を横切つた途端、萎えていた闘争本能が頭をもたげたらしい。攻撃は最大の防御なり、である。小さな私が死の恐怖から身を守るには、全力で集中する何かが必要なのだ。それはやつぱり「仕事」しかない。

アドレナリン全開で何年かぶりの企画書を書いて出版社に送り、数日後、肝臓の腫瘍は良性の血管腫と診断された。

そして今、テレビを見、長電話に興じ、温泉旅行のパンフレットを眺めてニタニタしている私である。

教員の皆さん！

根津 公子(東京)

◆ 停職「出勤」を終えて

停職「出勤」は私にとって、とても濃厚な日々だった。下校時には、挨拶だけでなく、かなりの生徒と話し込み、あるいは今まで話したことのなかった生徒とも親しくなった。私を通して生徒たちは、今の社会を、また、理不尽だと思ふことに諦めずに行動する大人がいることを知ったと思う。正規の授業からは外されたが、私はそれ以上の「授業」ができて、幸せ。

六月二八日、日常に戻ると生徒たちは、「先生がんばって！」「お帰りなさい」「おめでとう」「今日から授業してくれよね？」と一緒に喜んでくれる、迎えてくれた。うだるような暑さの中、私に協力するかのようによい授業に集中する生徒たちの姿に励まされる。生徒からの応援は、すべての苦痛をないものとするだけの力を持っている。

◆ なぜ、不従を続けるのか

直接の理由は今年の卒業式。免職を少しでも先に延ばしたいと思い、予め生徒には話し、謝った上で、途中までは起立をしたが、私は言行不一致の私自身に耐えられなかった。苦しかった。この時の気持ちは、生涯忘れ得ないだろう。

もう、生徒にも自分にも嘘をつくのはやめよう。私は教員として何を生徒に伝えたいのか。臭いものにつたをし、あるいは、諦め、服従することを身をもって教えてはならない。私が、身をもって伝えたいのは、どんな時きっぱり自己主張すること、あるいは、自己主張していいんだよということ。そう、思った。

◆ 道はつくっていくもの

一カ月間私は、たくさんの方の善意と良心に支えられた。私が歩き始めたところを周りの人が道を広げ、歩きやすいようにしてくださった。その中で私は、世論は私たちがつくっていくものだと実感。

今、良心的な教員たちの多くが、

心をほろほろにして、理不尽な命令に服従してしまふ。大きな理由は、地域・保護者から「非国民」のレッテルを貼られる、その不安にあるのではないかと思う。でも、不安の余り、職責を忘れ、生徒や自分に嘘をつき、この先果たして誇りを持って生きていけようか？自らに誇りを持ってないことほど辛いことはないのではないか。

一たびタブーに挑む行動をしたら、地域・保護者からの反発は必至だが、必ず、熱い共感や励ましも受けるものだ。一歩を踏み出し、「私」を生きてみませんか？

※詳しくはホームページをご参照ください。<http://www.din.or.jp/~okident/nezusan.htm>

※「石川中裁判を支える会」

連絡先：0426-64-5602 田中

振込口座(郵) 00150-7-15453

口座名義 石川中裁判を支える会

編・集・後・記

●クオータ制だけでなく、戸主制の廃止までなしとげた韓国。なぜ、韓国では……?いつか「We」で特集したいと思っていたところ、タイミング良くフェミニスト議員連盟の総会に併せて開催された孫明修さんの講演を聞いて、そのシャープで明快な分析に納得。孫さんとフェミニスト議員連盟のご協力を得て講演録としてまとめ掲載させていただきますました。柳川さんの韓国女性財団の報告は、小誌○五年一月号に寄稿いただいた木村民子さんの報告のほかで、とりわけ興味を持ったファンドレイジングにまつわる知恵と工夫を詳しくご紹介いただきました。どちらにも、いまの日本の閉塞状況を別の視点から捉え直し、具体的に動き出すための旬の情報だと思います。

さて、先月号でお知らせしたFemixの移転先がようやく決まりそう、八月の末に引越しの予定です。引きこもりの若者の支援をしているNPOニースタート事務局が東京駅にほど近い八丁堀のビルのワンフロア(約三十坪)を借り、家賃の半分を負担、あと

の半分をいくつかのNPOや、NGO、会社が協同で借りるようにして、共有スペースをカフェ風にしてイベントもできるように、と企画中です。今度さえ時間が足りないのに、赤字の「We」を抱えてこれ以上手を広げてどうするの?と言われそうだけど、この閉塞状況の中で、いっぱいいっぱいだからこそ、外にむかって開かれた、流れのある緩やかな空間をつくりたいと思うのです、何か!が動き始めることを祈って。入居希望のNPOやNGOを募集中です。お問い合わせください。10月号にはさいさきさきのよいお知らせができますように。

家庭科の編集会議は東京・ウイメンズプラザ交流コーナーで九月二四日午後一時から。八月六日〜七日、大阪のWeフォーラムでお会いできるのを楽しみにしています。(稲邑)

●暑期中、事務所候補の物件を見て回って、たいへんなことを始めてしまっただ……と実感。読者の白崎淳子さんや豊崎康弘さんがおもしろがって(見るに見かねて?)物件情報だけでなく、物件を見るポイントや事業計画など、強

いつのまにか元気になれる場所

フェミックス

TEL/FAX 03-3424-3603
E-mail info@femix.co.jp

●あなたの視野を広げます。

月刊誌「くらしと教育をつなぐWe」を発行。
A5判/64頁・680円・年間講読料7500円(送料込・年10冊発行)

●あなたの表現活動をサポートします。

単行本、ハンドブック、会報、パンフレットなどの制作をお手伝いします。

●あなたの悩みを共に考え、自分らしく生きることを応援します。

個人カウンセリング1時間6,500円(予約制)。各種ワークショップを企画・開催しています。

●フェミックス電話相談 TEL 03-3424-3814

※時間帯:月~金(土日祝日を除く)10:30~18:00(予約の場合、これ以外の時間帯でも利用可)
※利用料金:30分以内は3,500円 30分~60分まで6,500円

力なコンサルティング部隊として活躍。直感型の稲岳&体力だけの中村の、よく言えば「良い加減！」にあきれつつも、サポータータイプに対処していただいで感謝。引越だけでなく、フェミックスの新体制や『We』をどうリニューアルして元氣の出る場にしていくのか、暑さでとろけそうな脳味噌にむち打って？ がんばらねば…とこれまた体育会系の決意表明。新しい事務所が居心地のいい場所となるよう、みなさんのアイデアやお知恵をお寄せ下さい。そしてどんどん活用して下さい。近々のお願としては…引越にまつわるものもろの肉体労働、どうにも苦手な整理整頓、パソコン関係、苦手とはかりもいってられないのですが、どうぞ助けて下さい。よろしく願います。

WeフォーラムでWeenidoのワークを担当します。安全に、そして元氣になれる場をつくりたいと思います。どうぞ参加して下さい。(中村)

●隣の韓国の女性運動は元氣だなあ。女性運動だけでなくクリーンな選挙をめざして公の機関がチクリを奨励とはさすがの私ものけぞってしまった。ホ

ントにスゴイ！ 結果オーライの過激さと、日本でブームになっていた「冬ソナ」が共存している国ってどう理解すればいいんだろ？ ダークヒーロー好みの私にはヨン様のよさが全然分らないけれど、あれだけ日本の女を夢中にさせたことによる国際親善効果は抜群だったと思う。日本の閉塞状況は打開するには何か政治がおもしろいと思えるしかが必要だね。供与に預かって、チクツて、しっかりと褒美ももらって社会貢献、これって一石何とやらだ。私もやってみたい。(大沼)

●『We』を支えるために、出稼ぎや好きじゃない経理やシヨムニ的仕事を担ってききましたが、疲れてきたので、自分のやりたいことだけやるために八月いっぱいフェミックスから離れることにしました。これからは、女性のためのお助けサイトみたいなものを立ち上げ、WeenidoやAT、セイフティーンなど、女性への暴力に対する予防プログラムを自分のペースでやっていきたいと考えています。また、易者稼業のほうも今ままであまり時間を割けなかつたので、こちらにも力を入れ

たいと思っています。これからも『We』をどうぞ応援してやってください。洗剤は、お蔭様で『We』の財源を潤しつつあり、当分は担当を続けますので、よろしく願います。(河村)

●Weの読者拡大にご協力ください。読者のみなさんの口コミが一番効果的。チラシ・見本誌お送りしますのでご連絡下さい。Weのバックナンバーやフェミックスの本もぜひお買い求め下さい。よろしく願います。(編集部)

くらしと教育をつなぐWe

2005年8/9月号 (135号/vol.14 No.5)

2005年8月1日発行

定価……680円 (本体価格648円+税)
(年間購読料7500円/送料共)
発行……femix・フェミックス
〒154-0001 東京都世田谷区池尻3-2-3-703
tel & fax 03-3424-3603
E-mail: info@femix.co.jp
http://www.femix.co.jp
みずは銀行 池尻大橋出張所 (普) 1501277
郵便振替 00130-7-754314 (有)フェミックス
編集……稲邑恭子・中村泰子
装幀……川口民子 イラスト……中村 桂
印刷……(有)イー・エム・ピー

●本誌掲載記事の無断転載、複製をお断りします。

購読ご希望の方は、編集部に直接お申し込み下さい。電話、ファックス、E-mail、あるいは郵便振替で○号から購読希望と明記して年間購読料7500円をお振り込み下さい。

- 定価 680円 (本体価格648円+税)
- 年間購読料 7500円 (10冊/送料共)
- 郵便振替00130-7-754314フェミックス

「くらしと教育をつなぐWe」は、もともと家庭科の男女共修の実現のためにスタートした月刊誌ですが、従来の家庭科の枠を超えて、女と男が対等に生きることができる社会の実現のために必要な、さまざまなテーマを取り上げ、特に教育現場において性教育やいじめ防止教育なども包括した「男女平等教育」の実現と、「男女共同参画社会」実現のための具体的なノウハウを追求します。

■2005年度特集

4月号 (131号) 教育の多様性を尊重するために/5月号 (132号) 止まらないバックラッシュ論争/6月号 (133号) ニートと雑居福祉村構想/7月号 (134号) 自分がたのしい働き方

■連載

魚沼の地から 黒岩秩子◇わがまま映評 満田康子◇乱読大魔王日記 冠野文◇続・ひげのおばさん子育て日記 中畝常雄・治子◇Gender Free Breeze 三浦純子◇リレーエッセイ・地方からの発信◇ひと・まち・NPO 西川正◇女が歳をとるということ 木村栄

■女と男の家庭科新時代

授業実践/風がかわる匂いがかわる◇新・オホーツクの潮風荒く 江口凡太郎◇“覚醒”と“自立”のための「ジェンダー論」～女子大での教育経験から 沼崎一郎◇「ひまわり」の日々 入江一恵

◎バックナンバーも販売しています。バックナンバーのリストをご希望の方はお問い合わせください。

■2004年度特集

4月号 (121号) 地域で取り組む男女共同参画/5月号 (122号) 女と農とジェンダー/6月号 (123号) 多様性を尊重する性教育/7月号 (124号) 働くことの「現実」と「希望」/8/9月号 (125号) 「支配のテクニク」を突き崩せ!/10月号 (126号) 緩やかにつながりあってエンパワメント/11月号 (127号) バックラッシュを打ち負かせ!/12月号 (128号) 「ニート」と「引きこもり」/05年1月号 (129号) 続・バックラッシュを打ち負かせ!/2/3月号 (130号) 続・続・バックラッシュを打ち負かせ!

■Weの置いてある書店■

東 京 ●東京ウィメンズプラザ内一パッチワーク
●新宿2丁目一模索舎
●西荻窪一ナワ・ブラサード

大 阪 ●ウィメンズブックストアゆう

(書店でご注文の場合は「地方小出版流通センター取扱い」としてお申し込み下さい。)

フェミックス tel & fax 03・3424・3603

〒154-0001 東京都世田谷区池尻3-2-3サンケイグランドハイツ703

http://www.femix.co.jp

E-mail info@femix.co.jp